

# 鳥類

## 鳥類概論

### 概要および選定基準

今回の鳥類に関するレッドデータブックを作成するにあたっては、山岸（2002）を参考にして、各種鳥類の生息現状をより客観化した数値情報としてとらえるよう努めた。まず基本的な生息情報の把握のために、鳥類分科会の委員は、福岡県内の日本野鳥の会の4支部（北九州、筑豊、福岡、筑後）からの各1名と他に鳥類関係者2名の6名として、情報の検討を行なった。まず、各支部の該当地域毎にこれまで記録のあった鳥種を整理して、今回新たに福岡県産鳥類リストを作成し364種がリストアップされた（表 鳥類-1）。このうち、明らかな普通種、ごく稀にしか記録されない迷鳥、情報不足のため判断困難な種を除外して、検討種を243種に絞り込んだ。それらの種について、4支部から推薦された13名に生息情報に関するアンケートを送付して回答を得た。アンケートの内容は山岸（2002）の内容とほぼ同じで表 鳥類-2に示す。これらの回答から各種について評点を得て、その値を参考にしつつ、分科会委員で検討を行なって、半定量的な判断によって絶滅危惧ランクを決定した。その結果、90種について、絶滅が2種、絶滅危惧IA類が12種、絶滅危惧IB類が9種、絶滅危惧II類が25種、準絶滅危惧が38種。情報不足が4種となった。

前回の2001年福岡県版レッドデータブックの作成時には、定性的な判断によって絶滅危惧ランクを決定した。前回と今回とでは各ランクに該当する鳥種がかなり変化しているが、それは判断基準が定性的から半定量的に変わったことも大きく関係している。参考までに、前回と今回とのランク毎の該当種の変化を表 鳥類-3に示した。ランクへの該当理由については各種の記述を参照されたい。

### 危機の要因

**生息地の改変：**かつて危機要因として最も影響が大きかったのは、ダム開発、道路建設、埋立、土地造成、農地開発などの大型開発による直接的な生息地の消滅であった。しかしその後、経済状況の変化、自然保護意識の高まり、環境アセスメント制度の浸透などにより、無条件に大規模な生息地の破壊が行われることは少なくなっている。福岡県においては、博多湾の埋立開発、東九州道や九州新幹線の整備、ダム開発等の長期に及ぶ大型公共事業が行われているが、大きな土地改変を伴う工程は終了しているものもあり、生息地消滅の危機は少なくなっている。

**外来種の影響：**外来種による生態系の攪乱が懸念されているが、陸鳥の場合には1970年代から見られるようになったソウシチョウと、1980年代から増加しているガビチョウが問題となっている。ソウシチョウは福岡県では英彦山や脊振山地などでのみ繁殖していたものが、1990年代後半頃からは標高500m以下の低山でも繁殖するようになり、渡り時期や越冬期には市街地でも見られる。生息環境が一致しているウグイスに影響があるのではないかともいわれている。一方ガビチョウは丘陵地や山麓を中心に生息域を拡大している。北部九州では、丘陵地や低山においてガビチョウと生態的に競合する種が存在しないと思われ、生態系の「すきま」にうまく入り込んだ状態のようである。また海鳥の場合では、カンムリウミスズメ及びヒメクロウミツバメ繁殖地へのドブネズミの侵入・捕食が極めて大きな問題となっている。

**気候変動：**90年代以降夏鳥が著しく減少していることが問題として取り上げられてきた。繁殖地の環境に変化が見られないのに夏鳥が減少していることから、越冬地での森林伐採などが原因である可能性が高いと指摘されていた。福岡県でもヨタカ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、アオバズクなどの夏鳥が著しく減少しているが、これらの種に共通するのは昆虫を主な餌とする種であることである。餌の減少がこれら昆虫食の鳥類の減少の一因となっているとも考えられる。餌資源の変化が気候変動と関係しているのかどうか、科学的な究明が求められる。また、魚食性のコアジサシでも、営巣に適した環境が存在するにも関わらず、飛来しても繁殖行動が行われず、繁殖期の途中で個体数が減少していくと

いう現象が見られている。餌となる魚類の減少や発生時期の変化が考えられ、海水温の変化が要因となっている可能性も考えられる。これらの問題に関しては、小手先の対策では解決しない場合がほとんどで、影響が顕在化した時点では、問題を解決することは極めて困難である。

**鳥類観察者による影響：**近年新たな問題として、観察者の増加に伴う鳥類への影響が挙げられる。特にデジタルカメラの普及により、容易に鳥類撮影ができるようになり、鳥を撮影対象とする人が増加している。情報ネットワークの普及により、ごく短時間で多くの人に情報が広がり、限られた場所に多くの撮影者が集まり、その接近・存在がこれら鳥類に影響を与えている。福岡県でもサンコウチョウ、アカショウビン、アオバズクなどで繁殖状況を撮影するために人が集まり、営巣を放棄した事例が知られているほか、猛禽類やフクロウ類、カワセミ類、コアジサシ、ヤイロチョウなどの人気のある種についても、観察・撮影圧による影響が問題視されている。このように一部の生息数の少ない種は、観察や撮影による繁殖放棄が大きな危機要因となっている。

### ハビタットおよび保全対策

鳥類にとっての福岡県内の重要なハビタットとそこに生息する絶滅危惧種とその保全対策について記せば以下のようである。

#### (島嶼)

沖ノ島・小屋島：宗像市。沖ノ島全島は常緑広葉樹の自然林におおわれ、リュウキュウコノハズク、ウチヤマセンニュウ、カラスバト、ハヤブサが繁殖し、またオオミズナギドリの繁殖地となっている。国設鳥獣保護区の特別保護地区や天然記念物「沖の島原始林」に指定されていて、沖ノ島そのものについては生息地破壊の心配はない。属島の小屋島では、カンムリウミスズメとヒメクロウミツバメが繁殖するが、1987年のドブネズミの侵入・捕食による壊滅的な被害の後、徐々に繁殖数が回復途上にあつたものの、2009年には再びドブネズミの侵入といくらかの捕食被害が確認された。ヒメクロウミツバメについてはその後繁殖が見られない状態が続いている。また、2010年には沖ノ島で海岸部から林内の広い範囲にドブネズミの生息が確認され、今後、継続的にドブネズミが小屋島へ侵入する危険性が考えられた。小屋島でのネズミ類侵入の監視と駆除、および沖ノ島での駆除対策が求められる。

白島：北九州市。男島と女島からなり、男島は常緑広葉樹林におおわれカラスバトが繁殖し、またオオミズナギドリの集団繁殖地となっている。春秋の渡りの時期には陸鳥の中継地になっている。白島石油備蓄基地があり、大部分が県指定鳥獣保護区の特別保護地区になっている。

大島・地島：宗像市。島の大部分が常緑広葉樹林におおわれカラスバト、ミサゴ、ハヤブサが繁殖する。

志賀島・沖津島：福岡市。冬期には周辺海域でシノリガモ、ウミスズメ等の海鳥が生息し、沖津島ではウチヤマセンニュウが繁殖する。

大机島：福岡市。ウチヤマセンニュウの繁殖地として重要である。

鳥帽子島：糸島市。岩礁島で無人灯台があるだけで、県設鳥獣保護区の特別保護地区になっている。カンムリウミスズメの繁殖地であり、ここもネズミ類の侵入による繁殖個体群の崩壊に注意する必要がある、監視が必要である。

姫島：糸島市。自然林化している二次林にはカラスバトの生息が確認されている。

三池島：大牟田市。三井三池炭坑の坑道吸気のために建設された人工島だが、島の砂礫地はベニアジサシの繁殖地の北限となっており、またコアジサシも繁殖する。しかし、植生域の拡大による砂礫地の減少や人工島の老朽化による崩壊の危険など、両種の繁殖コロニーの存続が危ぶまれていて、保全を図るには多くの課題がある。

## (水辺)

曾根干潟とその周辺：北九州市・苅田町。約 500ha の砂泥質の干潟と約 650ha の水田地帯などの後背地が広がる。ズグロカモメ、ツクシガモ、ダイシャクシギの越冬地であるとともに、カラフトアオアシシギなどシギ・チドリ類の重要な中継地となっている。北九州空港及び苅田港埋立地の造成による干潟前面海域の閉鎖度の高まりや漁港設置などによる底質・水質の変化が今後どのように推移するか気になるところである。また後背地では道路建設が予定されており、今後の道路建設の影響も懸念される。

和白干潟とその周辺：福岡市。砂質干潟と浅海域からなり、後背地には水田のほか住宅地が迫っている。クロツラヘラサギ、ズグロカモメ、ツクシガモが越冬するとともに、ヘラシギ、カラフトアオアシシギなどシギ・チドリ類の重要な中継地ともなっている。人工島の造成により前面海域の閉鎖度が増加し、また水域の富栄養化によるアオサの大量漂着など、環境の劣化の進行が懸念される。

瑞梅寺川河口とその周辺：福岡市。砂泥質の干潟と水田地帯の後背地からなり、クロツラヘラサギ、ヘラサギ、ズグロカモメの越冬地として重要である。ヘラシギ、カラフトアオアシシギなどシギ・チドリ類の重要な中継地ともなっている。

有明海干潟：柳川市・みやま市・大牟田市。有明海に広がる広大な干潟のうち、福岡県部分の 20km ほどの海岸線の地先にある干潟である。1970 年代までは極めて多数のシギ・チドリ類が渡来していたが、その後、渡来数が激減して現在に至っている。今後の渡来数回復に備える意味でも当地の干潟は重要である。

## (平地)

響灘埋立地：北九州市。放置された埋立地にアシ原が形成され、チュウヒの繁殖地となっている。近年のアシ原の減少傾向の中で、一時的に形成されたアシ原での利用であり、継続性の点で問題があり保全が困難と考えられる。

筑後川：久留米市など。九州最大の河川であり、その河川敷でのツバメチドリの繁殖が特筆される。

## (山地)

英彦山とその周辺山系：添田町・東峰村・みやこ町など。多くの森林棲鳥類の生息地として知られる。特に県内のクマタカ、コノハズク、ブッポウソウ、コマドリの生息地として重要である。

古処山とその周辺山系：朝倉市・嘉麻市など。英彦山山系とも連なり、クマタカを始めとする森林棲鳥類の重要な生息地である。

釈迦岳とその周辺山系：八女市など。森林棲鳥類の生息地であるとともに、大分県側の森林地帯をも含めてクマタカの繁殖地としての可能性が示唆されている。

脊振山とその周辺山系：福岡市。ミゾゴイ、ヤイロチョウ、コルリ等森林棲鳥類の重要な生息地である。

## 参考資料

山岸哲. 2002. 近畿地区・鳥類レッドデータブック. 京都大学学術出版会.

## 調査協力者

田村耕作, 武下雅文, 林修, 落合東太, 梶原剛二, 松尾節朗, 木原直人, 溝田泰博, 江口浩喜

表 鳥類-1 福岡県鳥類目録

分類			生息状況		地域				備考	
			渡り区分	繁殖	福岡	北九州	筑豊	筑後		
アビ目	アビ科	アビ	冬鳥		●	●	●	●		
		オオハム	冬鳥		●	●	●	●		
		シロエリオオハム	冬鳥		●	●	●	●		
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥	●	●	●	●	●		
		ハジロカイツブリ	冬鳥		●	●	●	●		
		ミミカイツブリ	冬鳥		●	●	●	●		
		アカエリカイツブリ	冬鳥		●	●	●	●		
		カンムリカイツブリ	冬鳥		●	●	●	●		
ミズナギドリ目	ミズナギドリ科	オオミズナギドリ	夏鳥	●	●	●	●			
		ハシボソミズナギドリ	旅鳥		●	●	●	●		
ペリカン目	ウミツバメ科	ヒメクロウミツバメ	夏鳥	●	●	●	●			
		カツオドリ	冬鳥		●	●	●	●		
	カツオドリ科	アカアシカツオドリ	迷鳥		●	●	●	●		
		カワウ	冬鳥		●	●	●	●		
		ウミウ	冬鳥	△	●	●	●	●	近年の繁殖例はないと思われる。	
グンカンドリ科	ヒメウ	冬鳥		●	●	●	●			
コウノトリ目	サギ科	コグンカンドリ	迷鳥		●	●	●	●		
		サンカノゴイ	冬鳥		●	●	●	●		
		ヨシゴイ	夏鳥	●	●	●	●	●		
		オオヨシゴイ	迷鳥		●	●	●	●		
		ミゾゴイ	夏鳥	●	●	●	●	●		
		ゴイサギ	留鳥	●	●	●	●	●		
		ササゴイ	夏鳥	●	●	●	●	●		
		アカガシラサギ	旅鳥/冬鳥		●	●	●	●		
		アマサギ	夏鳥	●	●	●	●	●		
		ダイサギ	留鳥	●	●	●	●	●		
		チュウサギ	夏鳥	●	●	●	●	●		
		コサギ	留鳥	●	●	●	●	●		
		カラシラサギ	旅鳥		●	●	●	●		
		クロサギ	留鳥	●	●	●	●	●		
		アオサギ	留鳥	●	●	●	●	●		
		ムラサキサギ	旅鳥		●	●	●	●		
		コウノトリ科	コウノトリ	迷鳥		●	●	●	●	筑後での記録は、増殖個体。
	ナベコウ		迷鳥		●	●	●	●		
	トキ科	ヘラサギ	冬鳥		●	●	●	●		
		クロツラヘラサギ	冬鳥		●	●	●	●		
		コクガン	冬鳥		●	●	●	●		
	カモ目	カモ科	マガン	冬鳥		●	●	●	●	
			カリガネ	迷鳥		●	●	●	●	
			ヒシクイ	冬鳥		●	●	●	●	
			サカツラガン	迷鳥		●	●	●	●	
			コブハクチョウ	迷鳥		●	●	●	●	
			オオハクチョウ	迷鳥		●	●	●	●	
コハクチョウ			冬鳥		●	●	●	●		
アカツクシガモ			冬鳥		●	●	●	●		
ツクシガモ			冬鳥		●	●	●	●		
オシドリ			冬鳥	△	●	●	●	●	各地で繁殖例が増えている。	
マガモ			冬鳥	●	●	●	●	●		
カルガモ			留鳥	●	●	●	●	●		
コガモ			冬鳥		●	●	●	●		
トモエガモ			冬鳥		●	●	●	●		
ヨシガモ			冬鳥		●	●	●	●		
オカヨシガモ			冬鳥		●	●	●	●		
ヒドリガモ			冬鳥		●	●	●	●		
アメリカヒドリ			冬鳥		●	●	●	●		
オナガガモ			冬鳥		●	●	●	●		
シマアジ			旅鳥		●	●	●	●		
ハシビロガモ			冬鳥		●	●	●	●		
アカハシハジロ			迷鳥		●	●	●	●		
ホシハジロ			冬鳥		●	●	●	●		
メジロガモ			迷鳥		●	●	●	●		
アカハジロ			冬鳥		●	●	●	●		
キンクロハジロ			冬鳥		●	●	●	●		
スズガモ			冬鳥		●	●	●	●		
クロガモ			冬鳥		●	●	●	●		
ピロードキンクロ			冬鳥		●	●	●	●		
シロガモ			冬鳥		●	●	●	●		
コオリガモ			迷鳥		●	●	●	●		
ホオジロガモ			冬鳥		●	●	●	●		
ミコアイサ			冬鳥		●	●	●	●		
ウミアイサ			冬鳥		●	●	●	●		
コウライアイサ			迷鳥		●	●	●	●		
カワアイサ			冬鳥		●	●	●	●		

分類			生息状況		地域			備考	
			渡り区分	繁殖	福岡	北九州	筑豊		筑後
タカ目	タカ科	ミサゴ	留鳥	●	●	●	●	●	
		ハチクマ	旅鳥	○	●	●	●	●	繁殖期の観察例あり。
		トビ	留鳥	●	●	●	●	●	
		オジロワシ	迷鳥		●	●	●	●	
		オオタカ	留鳥/冬鳥	●	●	●	●	●	近年繁殖例が増えている。
		アカハラダカ	旅鳥		●	●	●	●	
		ツミ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		ハイタカ	冬鳥		●	●	●	●	
		ケアシノスリ	迷鳥		●	●	●	●	
		オオノスリ	迷鳥		●	●	●	●	
		ノスリ	冬鳥		●	●	●	●	
		サンバ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		クマダカ	留鳥	●	●	●	●	●	
		カタシロワシ	迷鳥		●	●	●	●	
		ハイイロチュウヒ	冬鳥		●	●	●	●	
		チュウヒ	留鳥	●	●	●	●	●	
		ハヤブサ	留鳥	●	●	●	●	●	
		チゴハヤブサ	旅鳥		●	●	●	●	
		コチョウゲンボウ	冬鳥		●	●	●	●	
		アカアシチョウゲンボウ	迷鳥		●	●	●	●	
チョウゲンボウ	冬鳥		●	●	●	●			
キジ目	キジ科	ウズラ	冬鳥		●	●	●	●	
		ヤマドリ	留鳥	●	●	●	●	●	
		キジ	留鳥	●	●	●	●	●	
ツル目	ツル科	クロツル	迷鳥		●	●	●	●	
		ナベツル	旅鳥		●	●	●	●	
		マナツル	旅鳥		●	●	●	●	
		アネハツル	迷鳥		●	●	●	●	
		クイナ	冬鳥		●	●	●	●	
	クイナ科	ヒメクイナ	旅鳥		●	●	●	●	
		ヒクイナ	留鳥	●	●	●	●	●	
		シロハラクイナ	迷鳥		●	●	●	●	
		バン	留鳥	●	●	●	●	●	
		ツルクイナ	迷鳥		●	●	●	●	
ノガン科	オオバン	留鳥	●	●	●	●	●		
	ヒメノガン	迷鳥		●	●	●	●		
チドリ目	レンカク科	レンカク	迷鳥		●	●	●	●	
		タマシギ	留鳥	●	●	●	●	●	
	タマシギ科	ミヤコドリ	冬鳥		●	●	●	●	
		チドリ科	ハジロコチドリ	冬鳥		●	●	●	●
	コチドリ	留鳥	●	●	●	●	●		
	イカルチドリ	留鳥	●	●	●	●	●		
	シロチドリ	留鳥	●	●	●	●	●		
	メダイチドリ	旅鳥/冬鳥		●	●	●	●		
	オオメダイチドリ	旅鳥		●	●	●	●		
	オオチドリ	迷鳥		●	●	●	●		
	ムナグロ	旅鳥/冬鳥		●	●	●	●		
	ダイゼン	冬鳥		●	●	●	●		
	ケリ	留鳥	●	●	●	●	●		
	タゲリ	冬鳥		●	●	●	●		
	シギ科	キョウジョシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		ヒメハマシギ	迷鳥		●	●	●	●	
		ヨーロッパトウネン	旅鳥/冬鳥		●	●	●	●	
		トウネン	旅鳥/冬鳥		●	●	●	●	
		ヒバリシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		オジロトウネン	旅鳥/冬鳥		●	●	●	●	
		ヒメウズラシギ	迷鳥		●	●	●	●	
		アメリカウズラシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		ウズラシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		ハマシギ	冬鳥		●	●	●	●	
		サルハマシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		コオバシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		オバシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		ミュビシギ	冬鳥		●	●	●	●	
		ヘラシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		エリマキシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		コモンシギ	迷鳥		●	●	●	●	
		キリアイ	旅鳥		●	●	●	●	
		オオハシシギ	冬鳥		●	●	●	●	
		シベリアオオハシシギ	迷鳥		●	●	●	●	
		ツルシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		アカアシシギ	旅鳥/冬鳥		●	●	●	●	
		コアアシシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		アアシシギ	旅鳥/冬鳥		●	●	●	●	
		カラフトアアシシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		クサシギ	冬鳥		●	●	●	●	
ダカブシギ		旅鳥		●	●	●	●		
キアシシギ		旅鳥		●	●	●	●		
イソシギ		留鳥	●	●	●	●	●		
ソリハシシギ		旅鳥		●	●	●	●		
オグロシギ		旅鳥		●	●	●	●		
オオソリハシシギ		旅鳥		●	●	●	●		
ダイシャクシギ		冬鳥		●	●	●	●		
ホウロクシギ		旅鳥		●	●	●	●		
チュウシャクシギ		旅鳥		●	●	●	●		
コシャクシギ		旅鳥		●	●	●	●		
ヤマシギ		冬鳥		●	●	●	●		
タンシギ		冬鳥		●	●	●	●		
チュウジシギ	旅鳥		●	●	●	●			
オオジシギ	旅鳥		●	●	●	●			
アオシギ	冬鳥		●	●	●	●			

分類		生息状況	地域				備考		
			渡り区分	繁殖	福岡	北九州		筑豊	筑後
チドリ目	セイタカシギ科	セイタカシギ	旅鳥/冬鳥		●	●	●	●	
		ソリハシセイタカシギ	迷鳥		●	●	●	●	
	ヒレアシシギ科	アカエリヒレアシシギ	旅鳥		●	●	●	●	
		ツバメチドリ科	ツバメチドリ	夏鳥/旅鳥	●	●	●	●	●
	カモメ科	トウゾクカモメ	旅鳥		●				
		オオズグロカモメ	迷鳥		●				
		ハンボソカモメ	迷鳥		●	●			
		ユリカモメ	冬鳥		●	●	●	●	
		セグロカモメ	冬鳥		●	●	●	●	
		オオセグロカモメ	冬鳥		●	●	●	●	
		ワシカモメ	迷鳥		●				
		シロカモメ	冬鳥		●	●			
		カモメ	冬鳥		●	●	●	●	
		ウミネコ	留鳥		●	●		●	
		ズグロカモメ	冬鳥		●	●		●	
		ミツユビカモメ	冬鳥		●	●		●	
		ハジロクロハラアジサシ	旅鳥		●	●		●	
		クロハラアジサシ	旅鳥		●	●		●	
		オニアジサシ	迷鳥		●	●		●	
		ハシブトアジサシ	旅鳥		●	●		●	
		アジサシ	旅鳥		●	●	●	●	
	ベニアジサシ	夏鳥	●	●	●		●		
	エリグロアジサシ	迷鳥		●	●		●		
	コアジサシ	夏鳥	●	●	●		●		
	ウミスズメ科	ウミスズメ	冬鳥		●	●			
		カンムリウミスズメ	夏鳥?	●	●	●			繁殖期以外の生息状況は不明。
		ウトウ	冬鳥		●	●			
ハト目	ハト科	カラスバト	留鳥	●	●	●	●		
		キジバト	留鳥	●	●	●	●		
		アオバト	留鳥	●	●	●	●		
カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		セグロカッコウ	旅鳥?		●	●	●	●	繁殖期間の出現例が多い。
		カッコウ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		ツツドリ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		ホトトギス	夏鳥	●	●	●	●	●	
フクロウ目	フクロウ科	トラフズク	冬鳥		●	●	●	●	
		コミミズク	冬鳥		●	●	●	●	
		コノハズク	夏鳥/旅鳥	●	●	●	●	●	
		リュウキュウコノハズク	夏鳥?	○	●	●	●	●	繁殖期以外の生息状況は不明。
		オオコノハズク	不明		●	●	●	●	
		アオバズク	夏鳥	●	●	●	●	●	
		フクロウ	留鳥	●	●	●	●	●	
ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	夏鳥	●	●	●	●		
アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	旅鳥	●	●	●	●	●	
		ヒメアマツバメ	留鳥?	●	●	●	●	●	
		アマツバメ	夏鳥	●	●	●	●	●	
ブッポウソウ目	アナツバメ科	ヒマラヤアナツバメ	迷鳥		●	●	●	●	
		ヤマセミ	留鳥	●	●	●	●	●	
	ブッポウソウ科	ヤマショウビン	旅鳥	●	●	●	●	●	
		アカショウビン	夏鳥	●	●	●	●	●	
		カワセミ	留鳥	●	●	●	●	●	
ブッポウソウ科	ブッポウソウ	夏鳥/旅鳥	●	●	●	●	●		
キツツキ目	キツツキ科	ヤツガシラ	旅鳥	●	●	●	●	●	
		アリスイ	冬鳥		●	●	●	●	
		アオゲラ	留鳥	●	●	●	●	●	
		アカゲラ	迷鳥		●	●	●	●	
		オオアカゲラ	留鳥	●	●	●	●	●	
		コゲラ	留鳥	●	●	●	●	●	
		コゲラ	留鳥	●	●	●	●	●	
スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		ヒバリ科	ヒメコウテンシ	旅鳥		●	●	●	●
	ツバメ科	コヒバリ	迷鳥		●	●	●	●	●
		ヒバリ	留鳥	●	●	●	●	●	
		ショウドウツバメ	旅鳥	●	●	●	●	●	
		ツバメ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		コシアカツバメ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		イワツバメ	留鳥	●	●	●	●	●	
		イワミセキレイ	旅鳥	△	●	●	●	●	
		ツメナガセキレイ	旅鳥		●	●	●	●	
		キガシラセキレイ	迷鳥		●	●	●	●	
		キセキレイ	留鳥	●	●	●	●	●	
	ハクセキレイ	留鳥	●	●	●	●	●		
	セグロセキレイ	留鳥	●	●	●	●	●		
	マミジロタヒバリ	旅鳥		●	●	●	●		
	コマミジロタヒバリ	旅鳥		●	●	●	●		
	マキバタヒバリ	迷鳥		●	●	●	●		
	ピンズイ	冬鳥		●	●	●	●		
	セジロタヒバリ	旅鳥		●	●	●	●		
	ムネアカタヒバリ	冬鳥		●	●	●	●		
	チョウセンタヒバリ	迷鳥		●	●	●	●		
	タヒバリ	冬鳥		●	●	●	●		
	サンショウクイ科	サンショウクイ	留鳥/旅鳥	●	●	●	●	●	留鳥は亜種リ:クマノシヨウクイ。
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	●	●	●	●	●	
		モズ科	チゴモズ	旅鳥		●	●	●	●
	モズ科	モズ	留鳥	●	●	●	●	●	
		アカモズ	旅鳥	△	●	●	●	●	
タカサゴモズ		迷鳥		●	●	●	●		
オオカラモズ		迷鳥		●	●	●	●		
キレンジャク科		キレンジャク	冬鳥		●	●	●	●	
ヒレンジャク	冬鳥		●	●	●	●			

スズメ目	分類	種名	生息状況		地域				備考
			渡り区分	繁殖	福岡	北九州	筑豊	筑後	
	カワガラス科	カワガラス	留鳥	●	●	●	●	●	
	ミンサザイ科	ミンサザイ	留鳥	●	●	●	●	●	
	イワヒバリ科	ヤマヒバリ	迷鳥		●				
		カヤクグリ	冬鳥		●				
	ツグミ科	コマドリ	夏鳥/旅鳥	●	●	●	●	●	
		シマゴマ	旅鳥		●				
		ノゴマ	旅鳥		●				
		オガワコマドリ	冬鳥		●				
		コルリ	夏鳥/旅鳥	●	●	●	●	●	
		ルリビタキ	冬鳥		●				
		クロジョウビタキ	迷鳥		●				
		ジョウビタキ	冬鳥		●				
		ノビタキ	旅鳥		●				
		イナバヒタキ	迷鳥		●				
		サバクヒタキ	迷鳥		●				
		イゾヒヨドリ	留鳥	●	●	●	●	●	
		ヒメイトヒヨ	迷鳥		●				
		トラツグミ	留鳥	●	●	●	●	●	
		マミジロ	旅鳥		●				
		カラアカハラ	旅鳥		●				
		クロツグミ	夏鳥/旅鳥	●	●	●	●	●	
		クロウタドリ	迷鳥		●				
		アカハラ	旅鳥/冬鳥		●				
		シロハラ	冬鳥		●				
		マミチャジナイ	旅鳥/冬鳥		●				
		ノドクロツグミ	迷鳥		●				
		ツグミ	冬鳥		●				
		ヤドリギツグミ	迷鳥		●				
	ウグイス科	ヤブサメ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		ウグイス	留鳥	●	●	●	●	●	
		エゾセンニュウ	旅鳥		●				
		シマセンニュウ	旅鳥		●				
		ウチヤマセンニュウ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		マキノセンニュウ	旅鳥		●				
		コヨシキリ	旅鳥		●				
		オオヨシキリ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		チフチャフ	迷鳥		●				
		ムジセッカ	旅鳥		●				
		キマユムシクイ	旅鳥		●				
		カラフトムシクイ	迷鳥		●				
		メボソムシクイ	旅鳥		●				
		センダイムシクイ	夏鳥/旅鳥	●	●	●	●	●	
		ウスリームシクイ	旅鳥		●				
		エゾムシクイ	旅鳥		●				
		キクイタダキ	冬鳥		●				
		セッカ	留鳥	●	●	●	●	●	
	ヒタキ科	マミジロキビタキ	旅鳥		●				
		キビタキ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		ムギマキ	旅鳥/冬鳥		●				
		オジロビタキ	冬鳥		●				
		オオルリ	夏鳥	●	●	●	●	●	
		サメビタキ	旅鳥		●				
		エゾビタキ	旅鳥		●				
		コサメビタキ	旅鳥		●				
	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	夏鳥	●	●	●	●	●	
	エナガ科	エナガ	留鳥	●	●	●	●	●	
	ツリスガラ科	ツリスガラ	冬鳥		●				
	シジュウカラ科	コガラ	不明		●				
		ヒガラ	留鳥	●	●	●	●	●	
		キバラガラ	迷鳥		●				
		ヤマガラ	留鳥	●	●	●	●	●	
		シジュウカラ	留鳥	●	●	●	●	●	
	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	留鳥	●	●	●	●	●	
	メジロ科	メジロ	留鳥	●	●	●	●	●	
	ホオジロ科	シラガホオジロ	迷鳥		●				
		ホオジロ	留鳥	●	●	●	●	●	
		ユジュリン	迷鳥		●				
		シロハラホオジロ	旅鳥		●				
		ホオアカ	留鳥	●	●	●	●	●	
		コホオアカ	旅鳥/冬鳥		●				
		キマユホオジロ	旅鳥		●				
		カシラダカ	冬鳥		●				
		ミヤマホオジロ	冬鳥		●				
		シマアオジ	旅鳥		●				
		シマノジロ	旅鳥		●				
		ノジロ	旅鳥		●				
		アオジ	冬鳥		●				
		クロジ	冬鳥		●				
		シベリアジュリン	冬鳥		●				
		オオジュリン	冬鳥		●				
		ツメナガホオジロ	冬鳥		●				
		ユキホオジロ	迷鳥		●				



分類			生息状況		地域				備考	
			渡り区分	繁殖	福岡	北九州	筑豊	筑後		
スズメ目	アトリ科	アトリ	冬鳥	●	●	●	●	●		
		カワラビワ	留鳥	●	●	●	●	●		
		マヒワ	冬鳥		●	●	●	●		
		ベニヒワ	迷鳥		●	●	●	●		
		ハギマシコ	冬鳥		●	●	●	●		
		オオマシコ	迷鳥		●	●	●	●		
		イスカ	冬鳥		●	●	●	●		
		ベニマシコ	冬鳥		●	●	●	●		
		ウソ	冬鳥		●	●	●	●		
		コイカル	旅鳥/冬鳥		●	●	●	●		
		イカル	留鳥	●	●	●	●	●		
		シメ	冬鳥		●	●	●	●		
		ハタオリドリ科	ニューナイスズメ	冬鳥		●	●	●	●	
		スズメ	留鳥	●	●	●	●	●		
	ムクドリ科	ギンムクドリ	迷鳥		●	●	●	●		
		コムクドリ	旅鳥		●	●	●	●		
		カラムクドリ	迷鳥		●	●	●	●		
		ホシムクドリ	冬鳥		●	●	●	●		
		ムクドリ	留鳥	●	●	●	●	●		
	コウライウグイス科	コウライウグイス	旅鳥		●	●	●	●		
	オウチュウ科	オウチュウ	迷鳥		●	●	●	●		
	カラス科	カケス	留鳥	●	●	●	●	●		
		オナガ	絶滅		●	●	●	●		
		カササギ	留鳥	●	●	●	●	●		
		ホシガラス	迷鳥		●	●	●	●		
		コクマルガラス	冬鳥		●	●	●	●		
		ミヤマガラス	冬鳥		●	●	●	●		
		ハシボソガラス	留鳥	●	●	●	●	●		
		ハシブトガラス	留鳥	●	●	●	●	●		
	18目 64科 364種					360	324	217	259	
	帰化鳥	キジ目	キジ科	コジュケイ		○	○	○	○	
		ハト目	ハト科	カワラバト (ドバト)		○	○	○	○	
		スズメ目	チメドリ科	ガビチョウ		○	○	○	○	
			ソウシチョウ		○	○	○	○		

- 確実な記録あり
- 記録あり
- △ 可能性あり

表 鳥類-2 アンケート用紙

種名： \_\_\_\_\_ 対象個体群： \_\_\_\_\_

地域名： \_\_\_\_\_ 記入者名： \_\_\_\_\_

季節移動型： \_\_\_\_\_

繁殖確認ランク： \_\_\_\_\_

生息状況の信頼度	1	2	3			
地域内の分布パターン	1	2	3	4	5	6
生息環境の消失危険度	1	2	3	4	5	
生息個体数	1	2	3	4	5	6 7
個体数の増減	1	2	3	4	5	

生息状況

生息環境の消失要因

備考

凡例

対象個体群：繁殖・越冬・通過

地域名：福岡・北九州・筑豊・筑後の4地域

季節移動型：留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥・その他から選択

留鳥：一年中みられるもの

夏鳥：夏季に繁殖のため飛来するもの

冬鳥：越冬のため飛来するもの

旅鳥：渡りの途中に通過するもの

その他：迷行など

生息状況の信頼度

1:低い 2:中くらい 3:高い

地域内の分布パターン

1:局所(1~2箇所) 2:点在(数カ所) 3:まばら 4:広域 5:生息しない 6:不明

生息状況の消失危険度

1:極めて大きい 2:大きい 3:あり 4:なし 5:不明

生息概数(2000年以降の生息数, 可能な限り最新の状況)

1:1桁 2:2桁 3:3桁 4:4桁以上 5:生息しない 6:稀に飛来 7:不明

個体数の増減(原則として1990年頃との比較, それ以前と比較する場合は時期を明記する)

1:急減 2:減少傾向 3:増減なし 4:増加傾向 5:不明

繁殖確認ランク(2000年以降の状況について記入)

A:ヒナ, 卵やその痕跡が残る巣, 巣立ち直後の幼鳥, 抱卵する親鳥, 餌や糞を運ぶ親鳥を観察するなど, 繁殖の確認ができた場合

B:繁殖行動(求愛行動・交尾・造巣・偽傷行動・繁殖期におけるなわばり行動)観察し, 繁殖の可能性が高いと判断される場合

C:繁殖期に繁殖適地で確認したが, 繁殖の可能性についてはわからない場合

表 鳥類-3 新旧カテゴリー対照表

		福岡県RDB2001のカテゴリー							ランク外
		絶滅	絶滅危惧IA類	絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	情報不足	保全対策依存	
新カテゴリー	絶滅 (2種)	トビ オナガ							
	絶滅危惧IA類 (12種)		ヒメクロウミツバメ カラフトアオアシシギ ガムリウミスズメ	ヘラシギ チュウヒ コノハズク ブッポウソウ ウチヤマセンニュウ	ヨシゴイ サンショウクイ	コマドリ			リュウキュウコノハズク
	絶滅危惧IB類 (9種)		カラシラサギ クロツラヘラサギ クマタカ	ヤイロチョウ	ミンゴイ ベニアジサシ ヨタカ	ヘラサギ			コルリ
	絶滅危惧II類 (25種)			ズグロカモメ	トモエガキ ヤマドリ イカルチドリ ウスランギ タカブシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ ツバメチドリ コアジサシ カラスバト アオハズク ハヤブサ アカシヨウビン サンショウチョウ	シリガモ			アカエリカイツブリ ホオジロガモ クロガモ ミコアイサ ミヤコドリ ツミ コミズク オオアカガラ センダイムシクイ
	準絶滅危惧 (38種)				カンムリカイツブリ ツクシガモ	サンカノイ チュウサギ オンドリ ケリ ハチクマ オオタカ サンバ ヒクイナ タマンギ オオロシキリ オオルリ			ウミスズメ シロエリオオハム ササゴイ アマサギ クロサギ クイナ シロチドリ タゲリ ハマシギ ミユビシギ オオソリハシシギ オグロシギ ノスリ ハイイロチュウヒ コチヨウゲンボウ カヤクグリ ツリスガラ ハギマシコ ツツドリ ジュウイチ ヤマセミ コシアカツバメ クロツグミ ゴジュウカラ ニュウナイスズメ
	情報不足 (4種)							ウズラ	
	ランク外				ナベヅル マナヅル	コクガン マガン ヒシクイ アカハジロ ミサゴ ハイタカ シベリアオオハシシギ アカアシシギ キビタキ	オオジシギ カササギ		

網掛けは福岡県RDB2001からカテゴリー変更がなかったもの

コウノトリ目トキ科		トキ	絶滅
		<i>Nipponia nippon</i> (Temminck, 1835)	2001：絶滅，環境省：野生絶滅，IUCN：EN
選定理由	江戸時代末期には、現在の北九州市、福岡市に該当する地域では渡来していたという文献記載が存在する。		
分布情報	筑前国続風土記附録(1798)には「國中所々に集まりをれり」とあり、シーボルトは 1826 年の江戸参府途中に北九州市小屋瀬周辺で、早春にわなにかかることを聞き書きしている。また、筑前誌(1903)には、福岡市の大濠では幕末には毎年晩秋に渡って来たが、明治になると銃猟が盛んになり、1900 年頃には渡来しなくなったと記されている(安田 1983, 1984)。種の保存法(国内希少野生動物種)。		

スズメ目カラス科		オナガ	絶滅
		<i>Cyanopica cyana</i> (Pallas, 1776)	2001：絶滅，環境省：－，IUCN：LC
選定理由	柳川市、久留米市、みやま市(旧三橋町)などでは、昭和初期までは年中生息し、かつ繁殖していたが(川口 1937)、1958 年の久留米市での保護個体 1 羽を最後に記録が途絶え、絶滅した(倉成 1962)。		
分布情報	かつて、柳川市、久留米市、柳川市(旧三橋町)、筑後市、みやま市(旧瀬高町)からの観察例や捕獲例があった。		

ミスナギドリ目ウミツバメ科		ヒメクロウミツバメ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Oceanodroma monorhis</i> (Swinhoe, 1867)	2001：絶滅危惧 IA 類，環境省：絶滅危惧 II 類，IUCN：LC
選定理由	県内では小屋島(宗像市)でのみ繁殖する。1987 年のドブネズミによる捕食被害を受け、繁殖個体群はほぼ壊滅状態となった。その後徐々に回復しつつあったが、2009 年に再びドブネズミの侵入により捕食被害を受け、2010 年には繁殖の確証が得られなかった。このままでは絶滅へ向かう可能性が極めて高い。		
危機要因	外来種侵入(ドブネズミ)、産地局限		
生息状況	夏鳥として渡来する。繁殖地は 1 カ所のみで、捕食者の侵入により壊滅の状況となっている。		
分布情報	宗像市沖ノ島属島小屋島で繁殖。周辺海域での観察記録はほとんどなく、海上での生息状況は不明。福岡市玄界島沖、北九州市白島沖での記録がある。		
種の概要	全身黒褐色の小型の海鳥で全長 19cm。日本、朝鮮半島、中国黄海沿岸、ロシアピョートル大帝湾の無人島で繁殖し、冬はインド洋から紅海で越冬する。日本では日本海の数カ所の無人島と伊豆諸島八丈小島で繁殖する。繁殖期は 5～10 月。岩の隙間や土穴の中で営巣する。1 巣卵数は 1 個。ヒナは約 41 日で孵化し、60～100 日で巣立つ。海面上で小型甲殻類、小魚、プランクトンなどを捕食する。		
特記事項	特になし		

コウノトリ目サギ科		ヨシゴイ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Ixobrychus sinensis</i> (Gmelin, 1789)	2001：絶滅危惧 II 類，環境省：準絶滅危惧，IUCN：LC
選定理由	繁殖地が県内に 2～3 カ所しかないと思われ、生息数は激減している。越冬地での捕獲や生息環境の悪化が減少の要因となっているとの説もある。福岡市今津、北九州市曾根新田では繁殖状況が不定期となっている。		
危機要因	湿地開発、産地局限		
生息状況	夏鳥として渡来する。繁殖地数カ所と限定的で、生息数も極めて少ない。生息数は減少傾向にある。		
分布情報	繁殖していると思われるのは小竹町南良津、鞍手町木月池、福岡市今津。飯塚市中ノ島でも繁殖が確認されていたが、河川工事後は見られない。		
種の概要	全長 37cm の小型のサギ類。東アジアから東南アジアにかけて分布する。日本では夏鳥として九州以北に渡来する。池や河川、休耕田のヨシ原に生息し、ヨシやガマなどの茎を支えにして巣を作る。1 巣卵数は 4～7 個。魚類、カエルなどを捕食する。		
特記事項	繁殖地(小竹町)では釣り人による釣り糸や釣り針の放置があり危険にさらされているため、看板を設置し注意を呼びかけている。		

タカ目タカ科		チュウビ	絶滅危惧 IA 類
<i>Circus spilonotus</i> Kaup, 1847		2001：絶滅危惧 IB 類，環境省：絶滅危惧 IB 類，IUCN：LC	
選定理由	本種の生息には比較的広い河川敷やヨシ原等が必要であるが、現在生息可能なヨシ原が減少し、その影響で生息場所が限定しており、かつ個体数も減少傾向にある。福岡県では 2004 年以降響灘埋立地で繁殖が確認されているが、生息しているヨシ原は開発用地として造成された場所であることから、生息適地は徐々に減少しており、将来にわたり生息可能な場所ではない。		
危機要因	湿地開発，産地局限		
生息状況	繁殖地は現在 1カ所のみ。越冬地も極めて少なく生息数は 10 羽以下で、減少傾向にある。		
分布情報	北九州市響灘埋立地では繁殖が確認され、周年生息する。曾根海岸周辺では毎年数羽が越冬する。博多湾、有明海沿岸でも記録がある。		
種の概要	全長雄 48cm、雌 58cm。モンゴル、中国東北部、サハリンで繁殖し、東南アジアで越冬する。日本では北海道から九州にかけて繁殖地が局地的に点在する。冬季は全国各地で越冬する。ヨシ原を中心とした広い湿地に生息し、小型哺乳類、ヘビ、カエル、鳥類などを捕食する。繁殖期は 4～7 月。湿原の地上に巣を作る。		
特記事項	北九州市若松区の響灘の繁殖地は現在日本における繁殖地の南限にあたる。		

チドリ目シギ科		ヘラシギ	絶滅危惧 IA 類
<i>Eurynorhynchus pygmeus</i> (Linnaeus, 1758)		2001：絶滅危惧 IB 類，環境省：絶滅危惧 IA 類，IUCN：CR	
選定理由	種の総個体数は 2010 年現在 500 個体程度と推測されている、世界的に最も絶滅の危機に瀕している水鳥である。日本での飛来数は少ないが、総個体数が少ないことから日本の湿地の中継地としての重要性は高いと考えられる。福岡県では出現頻度が高く、特に重要と考えられる。		
危機要因	海岸開発		
生息状況	稀な旅鳥として記録される。秋の記録が多い。		
分布情報	博多湾では比較的記録が多く、数年に 1度くらいの頻度で確認される。北九州市曾根干潟でも記録がある。		
種の概要	へら形の嘴を持つ小型のシギ類。全長 15cm。ベーリング海沿岸地域で繁殖し、南アジアで越冬する。日本では主に秋の渡りの際に見られるが稀。干潟、砂浜で見られることが多いが、水田やハス田で見られることもある。嘴を左右に振りながら、微小な底生生物を食べる。		
特記事項	特になし		

チドリ目シギ科		カラフトアオアシシギ	絶滅危惧 IA 類
<i>Tringa guttifer</i> (Nordmann, 1835)		2001：絶滅危惧 IA 類，環境省：絶滅危惧 IA 類，IUCN：EN	
選定理由	種の総個体数は 1,000 個体以下と推測されている、世界的に最も絶滅の危機に瀕している水鳥である。日本での飛来数は少ないが、総個体数が少ないことから日本の干潟の中継地としての重要性は高いと考えられる。福岡県では出現頻度が高く、特に重要と考えられる。		
危機要因	海岸開発		
生息状況	稀な旅鳥として記録される。秋の記録が多い。		
分布情報	博多湾の多々良川河口、瑞梅寺川河口では比較的記録が多く、2～3年に 1度くらいの頻度で確認される。北九州市曾根干潟や大和干拓でも記録がある。		
種の概要	全長 31cm。サハリンで繁殖し、東南アジアで越冬する。日本では春、秋の渡りの際に見られるが、稀。干潟に生息し、カニを好んで食べる。		
特記事項	種の保存法(国内希少野生動植物種)		

## チドリ目ウミスズメ科

## カムリウミスズメ

## 絶滅危惧 IA 類

*Synthliboramphus wumizusume* (Temminck, 1835)

2001：絶滅危惧 IA 類，環境省：絶滅危惧 II 類，IUCN：VU

選定理由	小屋島(宗像市)の繁殖個体群は、1987年のドブネズミによる捕食のため壊滅的な被害を受けた。その後、回復しつつあったが、2009年に再びドブネズミの侵入により捕食被害を受けた。この状態が続けば絶滅する危険が極めて大きい。鳥帽子島の個体群に問題は発生していないが、ドブネズミ侵入の危険は常に存在する。
危機要因	外来種侵入(ドブネズミ)、産地局限
生息状況	県内2カ所で繁殖するが、個体数は多くない。捕食者侵入により、壊滅的被害を受けている。
分布情報	宗像市沖ノ島属島小屋島、糸島市鳥帽子島で繁殖。いずれの生息地も生息数は30～50羽程度と思われる。玄界灘では冬季観察されるが稀。
種の概要	小型の海鳥で全長24cm。日本の沿岸の島嶼でのみ繁殖する。岩の割れ目、草の間で営巣し、小屋島ではヒゲスゲ群落の岩の隙間、鳥帽子島では灯台の石垣の隙間で営巣している。1巣卵数は2個。ヒナは約30日で孵化し、1～2日で巣を離れ海に出る。繁殖期以外は洋上で生活し、陸に上がることはない。潜水して魚類、甲殻類、貝類などを捕食する。
特記事項	文化財保護法(天然記念物)

## フクロウ目フクロウ科

## コノハズク

## 絶滅危惧 IA 類

*Otus scops* (Linnaeus, 1758)

2001：絶滅危惧 IB 類，環境省：—，IUCN：LC

選定理由	現在繁殖期に生息が確認されているのは英彦山周辺だけであり、生息数も極めて少ないと考えられる。英彦山の豊前坊では2002年までは5月、6月に毎年観察されていたが、2003年以降観察例がほとんどない。これは、台風による倒木の増加や神社改修の工事の影響などが考えられる。2010年5月の夜間に英彦山周辺の一斉調査を行ったところ、2カ所で声が聞かれた。
危機要因	自然災害、植生変化、産地局限、その他(餌となる昆虫等の減少)
生息状況	夏鳥として渡来する。繁殖地は1カ所のみで、生息数も極めて少なく減少傾向にある。
分布情報	添田町英彦山。渡り時期には玄界灘沿いの島や沿岸部で比較的観察記録がある。八女市で2009年10月、久留米市で2011年5月に保護された例もある。
種の概要	小型のフクロウ類で、全長18～21cm。ユーラシア大陸に広く分布し、北方で繁殖するものは冬、南へ移動する。日本では九州以北に夏鳥として渡来する。夜行性で、山地の落葉広葉樹林や針葉樹林などに生息し、樹洞で繁殖する。繁殖期は5～8月。1巣卵数は4～5個。主に甲虫、バッタ類など昆虫類を捕食する。
特記事項	特になし

## フクロウ目フクロウ科

## リュウキュウコノハズク

## 絶滅危惧 IA 類

*Otus elegans* (Cassin, 1852)

2001：—，環境省：—，IUCN：NT

選定理由	県内の生息地が沖ノ島(宗像市)だけと限定されている。本種の主要分布域は南西諸島であり、福岡県は北方の隔離的な分布地として重要である。生息地である沖ノ島は神域として開発行為や人の出入りが厳しく制限されているため、開発等の危機要因はないが、生息地が1カ所と限られていることから、餌となる昆虫類の減少や病気の発生などで危機的状態となる可能性が考えられる。
危機要因	産地局限
生息状況	夏鳥として渡来する。繁殖地は1カ所のみだが、高密度で生息している。
分布情報	宗像市沖ノ島で観察される。北九州市白島でも記録があるが、現在の生息状況は不明。
種の概要	かつてはコノハズクの亜種とされていたが、現在は別種として分類されている。全長22cmでコノハズクよりやや大きい。福岡県沖ノ島、南西諸島、台湾の蘭嶼、フィリピンのカラヤン諸島に分布する。夜行性で、常緑広葉樹林に生息する。樹洞に営巣する。主に昆虫類、クモ類、ヤモリ類を捕食する。
特記事項	特になし

ブッポウソウ目ブッポウソウ科

ブッポウソウ

絶滅危惧 IA 類

*Eurystomus orientalis* (Linnaeus, 1766)

2001：絶滅危惧 IB 類，環境省：絶滅危惧 IB 類，IUCN：LC

選定理由	1960年代に朝倉市，80年代に八女市(旧黒木町，旧矢部村・日向神ダム)，90年代に英彦山で繁殖が確認され，福岡市油山，立花山で繁殖期に確認されたが，2000年以降は繁殖は確認されていないと思われ，県内では絶滅状態になっている。もともと個体数が少なく，全国的にもその数を減らしており，絶滅の危険性が大きい。
危機要因	森林伐採，その他(餌となる甲虫の減少，営巣する大きな樹洞の減少)，産地局限
生息状況	夏鳥として渡来するが，現在安定して繁殖する場所は既に見られない。
分布情報	英彦山・田川郡添田町で2000年以降の記録がある。渡り時期には玄界灘の島や沿岸域で渡り途中のものが観察される。
種の概要	全長28～30cm。濃緑色の体に赤い大きな嘴がよく目立つ。東～東南アジアおよびニューギニアで繁殖し，北方のものは南へ渡る。日本では夏鳥として渡来し，九州，四国，本州で繁殖する。樹洞で営巣するが，巣箱や橋梁などの人工物にも営巣する。トンボ，セミ，大型甲虫などの飛翔する昆虫類を飛びながら捕食する。
特記事項	県天；英彦山のブッポウソウ

スズメ目サンショウクイ科

サンショウクイ

絶滅危惧 IA 類

*Pericrocotus divaricatus* (Raffles, 1822)

2001：絶滅危惧 II 類，環境省：絶滅危惧 II 類，IUCN：LC

選定理由	福岡県では1980年代までは繁殖が確認されていたが，近年は繁殖期の確認情報がない。全国的に繁殖場所での確認例は減っており，生息環境の変化が見られない場所でも記録されなくなっていることから，越冬地での森林伐採などが影響しているという説もある。また，餌となる昆虫類の変化が影響を与えている可能性も考えられる。
危機要因	植生変化
生息状況	過去10年，繁殖期の確認例は見られない。渡り途中のものが春秋に観察される。
分布情報	福岡市油山，嘉麻市(旧山田市)大法山では過去に繁殖期の観察例があったが，2000年以降の繁殖期の確認例はない。春・秋には渡り途中のものが各地で観察される。
種の概要	アジアの極東地域に分布する。日本では本州，四国，九州に夏鳥として渡来し，東南アジアで越冬する。平地から山地の落葉樹林に生息し，樹上で昆虫類を捕食する。巣は地上から数m以上の，大きな木の横枝に作り，外部にウメノキゴケをクモの巣で貼り付ける。群れで渡りをする。
特記事項	南方系の別亜種であるリュウキュウサンショウクイは近年県内で増加している。本亜種は亜種サンショウクイと生息環境が異なり，常緑樹林に生息する。

スズメ目ツグミ科

コマドリ

絶滅危惧 IA 類

*Erithacus akahige* (Temminck, 1835)

2001：準絶滅危惧，環境省：—，IUCN：LC

選定理由	2001年以降，渡りと思われる個体は各地で観察されているが，繁殖していると思われるのは1カ所のみで，繁殖数が極めて少ない。英彦山周辺の生息適地では，近年ニホンジカによる林床植生の食害が著しく進行している。またそれに加えて，ブナ林再生事業のためにクマイザサの伐採が行われており，生息環境に大きな人為的变化があった。
危機要因	森林伐採(クマイザサ伐採)，植生変化(シカ食害による)，産地局限
生息状況	夏鳥として渡来する。繁殖すると思われるのは英彦山地の1カ所のみで，繁殖数も極めて少ない。
分布情報	県内では夏鳥として添田町英彦山，築上町・豊前市にまたがる経読林道に飛来する。渡り時期には県内各地で渡り途中の個体が確認される。
種の概要	日本，サハリン，南千島で繁殖し，中国南部で越冬する。九州以北の亜高山に夏鳥として渡来するほか，西日本で越冬することもある。下層にササ類の茂った広葉樹林や針葉樹林に生息し，地上に営巣する。林床で昆虫，クモ，ミミズ，植物の小果実などを食べる。
特記事項	特になし

スズメ目ウグイス科		ウチヤマセンニユウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Locustella pleskei</i> Taczanowski, 1889		2001：絶滅危惧 IB 類，環境省：絶滅危惧 IB 類，IUCN：VU	
選定理由	福岡県では生息箇所が 3 カ所と限られており，生息数は 200 個体以下と推測される。分布は局所的に散在しているため，それぞれの繁殖個体群の重要性は高い。個体数の著しい減少は見られていないが，沖ノ島ではドブネズミが増加しており，ネズミ類による卵やヒナの捕食が懸念される。		
危機要因	産地局限，植生変化，外来種侵入（ネズミ類）		
生息状況	夏鳥として渡来する。生息地は数カ所と限定されている。生息数は多くないが，減少傾向は見られない。		
分布情報	福岡市西区大机島，福岡市東区志賀島属島沖津島，宗像市沖ノ島の 3 カ所に夏鳥として渡来する。いずれの生息地でも確実な生息数の推定は行われていないが，大机島，沖ノ島は 50～100 つがい，沖津島は数つがいと考えられる。		
種の概要	アジア極東地域に分布し，日本では夏鳥として伊豆諸島，熊野灘，玄界灘，日向灘，錦江湾の島嶼に渡来する。冬季は中国南部からインドシナ半島北部で越冬する。島嶼の海岸性常緑低木林や竹林に高密度で生息し，オスは 300～400m <sup>2</sup> のテリトリーを持つ。主に昆虫類を捕食する。		
特記事項	特になし		

コウノトリ目サギ科		ミソゴイ	絶滅危惧 IB 類
<i>Gorsachius goisagi</i> (Temminck, 1835)		2001：絶滅危惧 II 類，環境省：絶滅危惧 IB 類，IUCN：EN	
選定理由	本種が生息する低山や丘陵地の森林は宅地やゴルフ場などの開発により減少している。また，本種は林床で採餌をするため，人の手が入らず下草が繁茂すると生息できなくなる。ミソゴイの減少は里山環境の荒廃が原因と考えられている。現在把握されている繁殖場所は少なく，生息密度も低いこと，全国的にも個体数の減少が報告されており，環境省のレッドリスト(2006 年)でも絶滅危惧 IB 類とされていることから，絶滅危惧 IB 類とした。		
危機要因	森林伐採，ゴルフ場，ダム建設，管理放棄		
生息状況	県内全域に夏鳥として渡来するが，生息数は少ない。生息状況は十分把握されていない。		
分布情報	脊振山地，油山山地，糸島半島，宗像市，八女市などで繁殖期に記録がある。玄界灘の島では渡り時期に比較的好く観察される。森林性のため確認するのが困難であり，北九州地域か筑豊地域の山地にも生息している可能性が高い。		
種の概要	日本でのみ繁殖し，冬は中国南部やフィリピンで越冬する。関東以南の本州，四国，九州に夏鳥として渡来する。丘陵地や低山の林に生息し，樹上に営巣する。林床でサワガニ，カエル，ミズなどを捕食する。		
特記事項	特になし		

コウノトリ目サギ科		カラシラサギ	絶滅危惧 IB 類
<i>Egretta eulophotes</i> (Swinhoe, 1860)		2001：絶滅危惧 IA 類，環境省：準絶滅危惧，IUCN：VU	
選定理由	種の総生息数が 2,500 個体と推定されており，アジアの水鳥の中でも危機に瀕した種である。博多湾では毎年複数個体の飛来が見られ，渡りの中継地として重要と考えられる。		
危機要因	海岸開発，湿地開発		
生息状況	主に旅鳥として少数が飛来する。定期的な飛来が見られるのは数カ所に限られる。		
分布情報	博多湾では毎年春から夏にかけて数羽が飛来する。繁殖期にも見られるが，これらは非繁殖個体と思われる。北九州市曾根，福津市津屋崎干潟でも記録がある。		
種の概要	全長 65cm のシラサギ類。韓国から中国東北部にかけての黄海沿岸で繁殖し，東南アジアで越冬する。日本では数少ない旅鳥として飛来し，西日本で記録が多い。干潟で観察されることが多く，魚類やカニなどを捕食する。		
特記事項	特になし		



コウノトリ目トキ科

ヘラサギ

絶滅危惧 IB 類

*Platalea leucorodia* Linnaeus, 1758

2001：準絶滅危惧，環境省：情報不足，IUCN：LC

選定理由	福岡市の瑞梅寺河口や東部海域の埋立地に、クロツラヘラサギとともに毎年 1～数羽が越冬する。しかし、河川改修や堆積土砂の浚渫などにより、ねぐらである中州の消失や給餌場の変化などが生じると、本種の越冬に重大な影響が生じる可能性がある。
危機要因	海岸開発，湿地開発，産地局限
生息状況	冬鳥として渡来する。越冬地は数カ所に限られる。越冬数はやや増加傾向が見られる。
分布情報	瑞梅寺河口では、ほぼ毎年数羽が越冬する。福津市津屋崎干潟，北九州市曾根干潟，洞海湾奥部などでも確認記録がある。
種の概要	しゃもじ型の嘴をした大型の水鳥で、全長 86cm。ユーラシア大陸，アフリカ大陸に広く分布する。日本では稀な冬鳥であったが、近年飛来数は増加傾向にあり、定期的に越冬する場所も見られるようになった。干潟や湿地に飛来し、魚類や甲殻類を捕食する。クロツラヘラサギの群れに混じって越冬することが多い。
特記事項	特になし

コウノトリ目トキ科

クロツラヘラサギ

絶滅危惧 IB 類

*Platalea minor* Temminck & Schlegel, 1849

2001：絶滅危惧 IA 類，環境省：絶滅危惧 IA 類，IUCN：EN

選定理由	種の総個体数が 2010 年現在約 23,000 羽と少なく、世界的に絶滅の危機に瀕している種である。県内では博多湾内の河口や干潟をはじめとして、毎年越冬個体が確認され、個体数の増加傾向がうかがえる。しかし、河川改修や堆積土砂の浚渫などにより、ねぐらである中州の消失や給餌場の変化などが生じると、本種の越冬に重大な影響が生じる可能性がある。また、埋立途中の湿地で越冬するものは、埋立の進行に伴い生息地が消滅する。
危機要因	海岸開発，湿地開発，産地局限
生息状況	冬鳥として渡来する。越冬地は数カ所に限られる。越冬数は増加していたが、近年ほぼ安定傾向にある。
分布情報	博多湾では瑞梅寺河口，多々良川河口，アイランドシティ埋立地で毎年越冬群が確認できる。前原市泉川河口，福津市津屋崎干潟，北九州市曾根干潟周辺，有明海沿岸などでも近年毎年越冬するようになった。
種の概要	主に朝鮮半島の西海岸で繁殖し、韓国南部，日本，中国南部，台湾，ベトナムで越冬する。世界の総個体数は近年増加傾向にある。日本では九州，沖縄で数カ所の越冬地があるほか、各地で記録される。干潟，河川，池，水路で魚類や甲殻類などを捕食する。埋立地に一時的にできた湿地で群れが越冬することもある。
特記事項	特になし

タカ目タカ科

クマタカ

絶滅危惧 IB 類

*Spizaetus nipalensis* (Hodgson, 1836)

2001：絶滅危惧 IA 類，環境省：絶滅危惧 IB 類，IUCN：LC

選定理由	県内では産地が局限されているが、2001 年以降、各地の調査により従来考えられていたより生息数が多いことがわかってきた。従って、絶滅危惧 IA 類から絶滅危惧 IB 類へと変更されたが、県内で生息数が危機的状況にあることは間違いない。ダム建設や道路工事が繁殖に与える影響が大きいと考えられる。また、はく製にすることを目的とした密猟や繁殖期の巣に接近しての写真撮影も生息を脅かす。
危機要因	森林伐採，ダム建設，道路工事，その他(餌となる動物の減少)
生息状況	留鳥として生息するが、局地的で生息数も少ない。
分布情報	英彦山地(添田町・みやこ町・築上町・豊前市)，古処山地(朝倉市・嘉麻市・東峰村)，耳納山地(うきは市)，釈迦岳山地(八女市)で 2000 年以降繁殖と思われる記録がある。脊振山地でも観察記録がある。
種の概要	大型のタカ類で全長 72～80cm。日本および東南アジアに分布する。日本では九州以北に留鳥として分布する。溪谷の森林に生息し、モミ類やマツなどの大径木に営巣する。縄張りは 20km <sup>2</sup> 前後。1 巣卵数は 1 個で、繁殖は 2～3 年間隔で行われることが多い。ノウサギ，ヤマドリ，ヘビ類などを捕食する。
特記事項	種の保存法；国内希少野生動植物種

チドリ目カモメ科		ベニアジサン	絶滅危惧IB類
<i>Sterna dougallii</i> Montagu, 1813		2001：絶滅危惧II類，環境省：絶滅危惧II類，IUCN：LC	
選定理由	大牟田市の有明海上に浮かぶ人工島の三池島で1994年に繁殖が確認され、日本での繁殖地の北限となっている。本島は海底炭鉱だった三井三池炭鉱の坑道吸気のため建設された人工島であるが、炭鉱閉山に伴い今後の保全に多くの課題が残されている。南西諸島や八重山諸島では台風の高波に卵やヒナがさらわれ繁殖に失敗することもあり、また、人為的な妨害により営巣を放棄するケースもある。		
危機要因	植生変化，その他(人工島の老朽化による崩壊)		
生息状況	三池島に夏鳥として飛来するが年次変動が大きく(数羽～500羽前後)，繁殖しなかった年もある。		
分布情報	福岡県内では三池島で繁殖するほか，福岡市奈多海岸で繁殖期に観察されることがある。また，北九州市響灘埋立地でも記録がある。		
種の概要	全長31cmのスマートなアジサン類。大西洋，インド洋，太平洋の熱帯～亜熱帯地方の沿岸で局地的に繁殖する。日本では南西諸島や八重山諸島，三池島に夏鳥として渡来し繁殖する。樹木のない無人島の海岸や砂地や岩礁などに集団で営巣する。海域で魚類やイカなどを捕食する。		
特記事項	特になし		

ヨタカ目ヨタカ科		ヨタカ	絶滅危惧IB類
<i>Caprimulgus indicus</i> Latham, 1790		2001：絶滅危惧II類，環境省：絶滅危惧II類，IUCN：LC	
選定理由	本種はかつて平地から山地にかけて普通に生息する種であったが，近年全国的に著しく減少している。福岡県でも繁殖に確認される場所は著しく減少しており，平地や丘陵地ではほとんど見られなくなり，山地でも生息地は少なくなっている。本種の減少要因はゴルフ場や宅地開発などの森林開発などが考えられるが，開発の行われていない場所でも減少していることから，餌となる昆虫類の減少などが原因となっている可能性がある。		
危機要因	森林伐採，ゴルフ場		
生息状況	夏鳥として渡来するが，かつて繁殖期に確認された地域の多くで見られなくなっている。		
分布情報	2000年以降の繁殖と考えられる記録は脊振山系だけと思われる。渡り時期には各地で記録がある。		
種の概要	東～東南アジアに分布し，東アジアで繁殖するものは冬に東南アジアで越冬する。日本では夏鳥として九州以北に渡来する。平地から山地の林で繁殖し，地上で営巣する。1巣卵数は2個。夜行性で，樹林の上空を飛びながら昆虫類を捕食する。		
特記事項	特になし		

スズメ目ヤイロチョウ科		ヤイロチョウ	絶滅危惧IB類
<i>Pitta nympha</i> Temminck & Schlegel, 1850		2001：絶滅危惧IB類，環境省：絶滅危惧IB類，IUCN：VU	
選定理由	夏鳥として飛来するが，個体数は少ないと思われる。県内の分布については十分調査されていないため，詳細は不明。春の渡りの時期には，福岡市内の公園でも確認情報がある。生息環境である沢沿いの山林は，開発などにより改変される可能性があり，その影響が懸念される。また，姿の美しさや希少性から繁殖の情報が広がると観察者や撮影者が集まり，その影響によって繁殖放棄する事例が各地で問題となっている。		
危機要因	森林伐採，ダム建設，その他(観察・撮影のための営巣地接近による営巣放棄)		
生息状況	夏鳥として渡来するが，繁殖期に見られる場所は数カ所と限られており，個体数も少ない。		
分布情報	これまで知られている渡来地は，福岡市脊振山系，油山，英彦山，古処山系などである。		
種の概要	カラフルな配色の小鳥で，「森の妖精」と呼ばれる。全長18cm。日本，中国南東部，東南アジア，インドに分布し，日本，中国で繁殖するものは東南アジアに渡り越冬する。日本では西日本のよく茂った常緑樹林に夏鳥として渡来するが局地的。地上や岩の隙間，木の又にドーム状の巣を作る。地上でミズや昆虫を捕食する。		
特記事項	種の保存法；国内希少野生動植物種		

スズメ目ツグミ科		コリリ	絶滅危惧IB類
<i>Luscinia cyane</i> (Pallas, 1776)		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	本種は福岡県では2地域でしか繁殖しておらず、生息数も50つがい以下と考えられることから絶滅危惧IB類とした。本種は下層がササに覆われた落葉広葉樹林で繁殖するが、英彦山ではシカによるササの食害が見られ、生息環境の悪化が見られる。脊振山系では現在シカの生息は見られないが、シカが侵入、増加し、ササの食害が起これば、本種は著しい影響を受けると考えられる。		
危機要因	シカ増加、植生変化、産地局限		
生息状況	夏鳥として渡来するが生息は局地的で、生息密度は低い。渡りの際には各地で記録される。		
分布情報	脊振山系および英彦山の標高800m以上のブナ林、イヌシデ林に夏鳥として渡来する。春、秋には県内各地で渡り途中のものが見られる。		
種の概要	全長14cm。上面が青、下面が白の美しい小鳥。シベリア東部、中国東北部、朝鮮半島、日本で繁殖し、東南アジアで越冬する。日本では九州以北に夏鳥として渡来する。山地の広葉樹林で繁殖し、渡りの時期には平地の林や公園でも観察される。地上に椀形の巣を作り、1巣卵数は3～5個。林床で昆虫類やミズなどを捕食する。		
特記事項	特になし		

カイツブリ目カイツブリ科		アカエリカイツブリ	絶滅危惧II類
<i>Podiceps grisegena</i> (Boddaert, 1783)		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	福岡市の志賀島から海の中道の外海側で生息する。クロガモ、ビロードキンクロなどと同様、わが国最南端の越冬地といえる。生息地の環境や生息状況に目立つ変化は見られていないが、海水温の変化などによる餌生物の生息状況の変動が、これら外洋性の水鳥に影響を与える可能性がある。また、船舶からの重油流出事故が起きれば、壊滅的な被害を受けると考えられる。		
危機要因	産地局限		
生息状況	冬鳥として渡来する。安定的な越冬地は1カ所だけであり、生息数も少ない。		
分布情報	志賀島～海の中道の外海側に飛来し越冬する。那珂川中流域、周防灘、奥洞海湾でも観察例がある。		
種の概要	大型のカイツブリ類で全長47cm。北半球の中緯度地域で繁殖し、冬はやや南下する。日本では北海道で少数が繁殖するほかは冬鳥として九州以北に渡来する。冬は主に海上に生息し、潜水して魚類や甲殻類などを捕食する。		
特記事項	特になし		

カモ目カモ科		トモエガモ	絶滅危惧II類
<i>Anas formosa</i> Georgi, 1775		2001：絶滅危惧II類，環境省：絶滅危惧II類，IUCN：VU	
選定理由	飛来数は年毎に変動があり、多い年には100羽単位の群れが観察される。越冬する個体数は県内全域で数十羽～100羽程度と思われる。玄界灘沿岸部、寺内ダム、筑後川中流部、その他数カ所の樹木に囲まれた湖沼で数羽～十数羽の群れで越冬する。生息環境悪化に敏感で、越冬地の状況次第では飛来しなくなる可能性がある。		
危機要因	湖沼開発、海岸開発		
生息状況	冬鳥として渡来する。年によって飛来数の増減があるが、県内における越冬個体数は多くない。		
分布情報	県内で100羽単位の群れは宗像市吉田ダム、福岡市瑞梅寺川河口・和白干潟、筑後川中流などで記録されている。その他、朝倉市寺内ダム、宮若市力丸ダムなどの内陸の湖沼で数羽単位の記録がある。		
種の概要	小型のカモ類で全長40cm。シベリア東部で繁殖し、アジア東南部で越冬する。日本では冬鳥として全国に渡来するが、個体数は多くない。河川や湖沼、ダムを好む。越冬地では主にイネ科、タデ科や水生植物などの種子や茎葉などを食べる植物食である。夜間に水田や湿地などで採食する。		
特記事項	特になし		

カモ目カモ科	クロガモ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Melanitta nigra</i> (Linnaeus, 1758)		2001：一，環境省：一，IUCN：LC
選定理由	福岡市の志賀島から海の中道の外海側で10羽前後の個体が冬鳥として生息する。シノリガモ、ピロードキンクロなどと同様で、わが国最南端の越冬地といえる。生息地の環境や生息状況に目立つ変化は見られていないが、海水温の変化などによる餌生物の生息状況の変動が、これら外洋性の水鳥に影響を与える可能性がある。また、船舶からの重油流出事故が起きれば、壊滅的な被害を受けると考えられる。	
危機要因	産地局限	
生息状況	冬鳥として渡来する。安定的な越冬地は1カ所だけであり、生息数も少ない。	
分布情報	志賀島～海の中道の外海で越冬する。福岡市今津や博多湾内でも確認記録がある。	
種の概要	全長 48cm。北半球の極北地域で繁殖し、冬は南下する。日本では冬鳥として九州以北に渡来するが、北日本に多い。外洋に面した沿岸域を好み、潜水して貝類などを捕食する。	
特記事項	特になし	

カモ目カモ科	シノリガモ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Histrionicus histrionicus</i> (Linnaeus, 1758)		2001：準絶滅危惧，環境省：一，IUCN：LC
選定理由	県内では10羽前後の個体が冬鳥として飛来し、福岡市の志賀島から海の中道の外海側で生息する。クロガモ、ピロードキンクロなどと同様、わが国最南端の越冬地といえる。志賀島や海の中道シオヤ崎沖などでは、定置網周辺で見られるが、分散傾向と減少傾向にあるものと思われる。	
危機要因	産地局限	
生息状況	冬鳥として渡来するが、安定的な越冬地は1カ所のみ。やや減少傾向にある。	
分布情報	福岡市志賀島～海の中道の外海で毎年越冬する。福岡市今津、新宮町相島、福津市などでも確認記録がある。	
種の概要	全長 43cm。北太平洋の沿岸域、カナダ東部、グリーンランドで繁殖し、冬はやや南下する。日本では東北地方の山間部で少数が繁殖するが、大部分は冬鳥として渡来し、北日本に多い。外海に面した岩礁を好み、潜水して貝類や甲殻類を捕食する。	
特記事項	特になし	

カモ目カモ科	ホオジロガモ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Bucephala clangula</i> (Linnaeus, 1758)		2001：一，環境省：一，IUCN：LC
選定理由	博多湾東部海域では100羽以上が越冬しており、全国有数規模の越冬数となっているが、周辺で埋立事業が行われており、生息地の減少や環境変化により越冬数は減少傾向にある。	
危機要因	海岸開発，産地局限	
生息状況	冬鳥として渡来する。越冬地は数カ所と限られている。越冬数は減少傾向にある。	
分布情報	福岡市博多湾東部海域・瑞梅寺川河口，北九州市曾根干潟で毎年越冬している。	
種の概要	全長 45cmの小型のカモ類。北半球の中緯度地域以北で繁殖し、冬は南下する。日本では冬鳥として九州以北に渡来するが、やや局所的。内湾を好み、潜水して甲殻類や貝類を捕食する。	
特記事項	特になし	

## カモ目カモ科

## ミコアイサ

## 絶滅危惧Ⅱ類

*Mergus albellus* Linnaeus, 1758

2001：一，環境省：一，IUCN：LC

選定理由	定期的な越冬地は数カ所と限られており、飛来数も少なく、個体数は減少傾向にある。ため池の富栄養価や改変などで、個体数の更なる減少が懸念される。釣りのためのボート侵入により影響を受けている事例もある。
危機要因	河川開発，産地局限
生息状況	冬鳥として渡来する。越冬地は数カ所と限られており、個体数も少ない。越冬数は減少傾向にある。
分布情報	北九州市頃田貯水池，糟屋郡駕与丁池，福岡市海の中道・アイランドシティ埋立地・屋形原箱池などで毎年数羽が越冬する。
種の概要	全長 42cm の小型のアイサ類。北半球の中緯度地域以北で繁殖し，冬は南下する。日本では冬鳥として九州以北に渡来するが，少ない。湖沼や池，河川，内湾などで見られ，潜水して魚類や甲殻類などを捕食する。
特記事項	特になし

## タカ目タカ科

## ツミ

## 絶滅危惧Ⅱ類

*Accipiter gularis* (Temminck & Schlegel, 1844)

2001：一，環境省：一，IUCN：LC

選定理由	以前は旅鳥または冬鳥と考えられていたが，添田町では繁殖期にも観察されている。生息地周辺で林道工事や公園化工事などが進めば繁殖に大きな影響が出るものと思われる。また，餌となる小鳥や昆虫も減少傾向にあり懸念される。
危機要因	森林伐採，道路工事，植生変化，その他(餌となる小鳥や昆虫の減少)
生息状況	夏鳥として渡来すると思われるが，生息状況はよくわかっていない。生息数は少ないと考えられる。
分布情報	嘉麻市，川崎町，添田町などで 2000 年以降繁殖期の記録がある。春秋の渡り時期には，県内各地で記録される。
種の概要	小型のタカ類で，全長雄 27cm，雌 30cm。東アジアで繁殖し，東南アジアで越冬する。日本では全国的に繁殖し，多くは冬，南へ渡ると考えられている。平地から山地の樹林地で繁殖するが，市街地の街路樹で繁殖することもある。マツやスギなどの横枝に巣を作る。1 巣卵数は 3～5 個。主に小鳥類を捕食する。
特記事項	特になし

## タカ目ハヤブサ科

## ハヤブサ

## 絶滅危惧Ⅱ類

*Falco peregrinus* Tunstall, 1771

2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類，IUCN：LC

選定理由	農業による生物濃縮を起こしやすいと言われており，以前は二次農業汚染が考えられてきた。磯釣りのための繁殖地の接近が繁殖活動に影響を与える恐れもある。繁殖環境が崖地に限定されるため，生息数が多くない。
危機要因	海岸開発，農業使用(間接影響)，その他(磯釣りのための繁殖地接近)
生息状況	留鳥として生息し，離島や沿岸部の採石地跡地等の崖を利用し繁殖する。内陸部では観察は少なく，また渡り時期や冬期には多くなる。生息数は安定している。
分布情報	北九州市では 11 カ所で繁殖が確認されている。宗像市，新宮町，福岡市，糸島市の島嶼でも繁殖する。これらのほか，内陸の採石場跡や山地の崖(添田町)，建造物での営巣があると考えられる。
種の概要	全長雄 38cm，雌 51cm。ほぼ全世界に分布する。日本では留鳥として全国に分布し，海岸や山地の崖地で繁殖するが，ビルや工場など都市部での繁殖例も見られるようになった。岩棚に簡単な産座をつくり産卵する。飛びながら中～小型の鳥類を捕食する。冬季は農耕地などでも見られる。
特記事項	種の保存法；国内希少野生動植物種

キン目キン科		ヤマドリ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Syrnaticus soemmerringii</i> (Temminck, 1830)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：一，IUCN：NT	
選定理由	開発による生息域の減少，温暖化による森林環境の変化がもたらす餌不足，狩猟による捕殺，また，狩猟を目的とした別亜種の放鳥による亜種間交雑が懸念される。		
危機要因	森林伐採，道路工事，植生変化，狩猟，異種交雑(亜種)，その他(餌となる木の実や昆虫などの減少)		
生息状況	留鳥として分布する。生息状況はよくわかっていないが，生息密度は低い。		
分布情報	北九州市，直方市，嘉麻市，飯塚市，添田町，宗像市，福岡市などで確認があるほか，県南の山地にも生息していると思われる。		
種の概要	全長雄 125cm，雌 55cm。日本固有種で，本州，四国，九州に分布し，4 亜種に分類される。福岡県に生息するのは北部九州に分布する亜種アカヤマドリ。山地の樹林に生息し，植物の種子や芽，実，昆虫類などを食べる。一夫多妻で，1 巣卵数は 7～13 個。		
特記事項	特になし		

チドリ目ミヤコドリ科		ミヤコドリ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Haematopus ostralegus</i> Linnaeus, 1758		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	本種の越冬地は全国的にも少なく，博多湾東部は古くからの越冬地として重要である。しかし越冬数は少なく，採餌場所や満潮時の休息場所の環境の変化などで，減少する可能性がある。		
危機要因	産地局限，海岸開発		
生息状況	冬鳥として渡来する。安定的な越冬地は数カ所に限られ，生息数も少ない。		
分布情報	毎年博多湾東部海域で数羽が飛来するほか，北九州市馬島にも渡来する。北九州市曾根干潟，宗像市釣川河口，福津市福岡海岸でも記録がある。		
種の概要	全長 45cm。ユーラシア大陸の中緯度地域で繁殖し，冬は南下する。日本では冬鳥として渡来するが局地的で，個体数も少ない。砂浜や岩礁を好み，二枚貝を好んで捕食する。		
特記事項	特になし		

チドリ目チドリ科		イカルチドリ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Charadrius placidus</i> J.E.& G.R.Gray, 1863		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	繁殖場所が河原や中州であるため，河川の増水による営巣地の水没や河川工事による営巣地の破壊など繁殖への影響が危惧される。また 4WD 車の河原への侵入により，巣やヒナの轢死が問題となっている。		
危機要因	河川開発，自然災害		
生息状況	県内各地に留鳥として分布するが，局地的で個体数も少ない。顕著な増減は見られない。		
分布情報	遠賀川，祓川，室見川，多々良川，英彦山川，筑後川，矢部川などで繁殖する。冬季には小河川やため池などでも見られる。		
種の概要	全長 21cm。東アジアに分布する。日本では本州，四国，九州に留鳥として分布するが，一部は移動する。主に河川の中流域の中州や川原に生息し，砂礫の河原で繁殖する。砂礫の地上に窪みを作り，簡単な巣を作る。1 巣卵数は 3～4 個。冬は河川のほか，水を落としたため池や水田でも見られる。昆虫などの小動物を餌とする。		
特記事項	特になし		

チドリ目シギ科		ウスラシギ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Calidris acuminata</i> (Horsfield, 1821)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	福岡市瑞梅寺川の河口付近のハス田などでは、春に10羽程度の群れで確認されていたが、ハス田の減少などにより近年著しく減少している。餌の減少、ハス田の減少などの環境変化により、中継地として危機的に状況となり、種全体が減少する可能性がある。		
危機要因	土地造成(水田・ハス田)		
生息状況	旅鳥として渡来する。定期的に飛来する場所は極めて少なく、個体数も少ない。		
分布情報	福岡市瑞梅寺川河口周辺、博多湾東部海域の埋立地、宗像市久原、鞍手町小牧、北九州市曾根新田、柳川市大和干拓		
種の概要	全長 21cm。ユーラシア大陸極北地東部で繁殖し、オーストラリアで越冬する。日本では旅鳥として春・秋に通過する。水田、ハス田、埋立途中の湿地など淡水の湿地に渡来し、微小な底生生物を捕食する。		
特記事項	特になし		

チドリ目シギ科		タカブシギ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Tringa glareola</i> Linnaeus, 1758		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	県内ではかつては淡水湿地性のシギとして最も普通種の中の1種であったが、近年生息環境の悪化により渡来数は減少している。生息環境である水を張った休耕田や水田、ハス田の減少が渡来数減少の一要因と考えられる。		
危機要因	湿地開発、乾田化		
生息状況	旅鳥として渡来し、県内各地で見られるが個体数は少ない。顕著な減少傾向が見られる。		
分布情報	北九州市曾根新田・吉田、宗像市曲、福津市津屋崎、福岡市瑞梅寺川河口周辺、柳川市大和干拓、橋本干拓などで見られる。		
種の概要	全長 21.5cm。ユーラシア大陸の中緯度地域で繁殖し、中国南部、東南アジア、オーストラリア、インド、アフリカで越冬する。日本では旅鳥として渡来するが、沖縄では越冬する。水田、湿地、河川などに渡来し、昆虫類、ミミズ、甲殻類などを捕食する。		
特記事項	特になし		

チドリ目シギ科		ダイシャクシギ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Numenius arquata</i> (Linnaeus, 1758)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：一，IUCN：NT	
選定理由	本種の渡来する干潟は全国的に見ても少なく、そのほとんどが数羽である。北九州市曾根干潟においては、毎年約100羽前後が越冬し、国内有数の越冬地として重要である。		
危機要因	海岸開発、産地局限		
生息状況	冬鳥として渡来する。越冬地は数カ所に限られる。越冬数はやや減少傾向にある。		
分布情報	北九州市曾根干潟、福岡市和白干潟周辺で定期的に越冬する。福岡市瑞梅寺川河口、柳川市筑後川河口・矢部川河口では渡り時期に観察されることがある。		
種の概要	長大な嘴を持つ大型のシギ類で全長 60cm。ユーラシア大陸の北部で繁殖し、中国南部、東南アジア、インド、アフリカで越冬する。日本では旅鳥または冬鳥として渡来する。広大な干潟に生息し、カニ類を好んで捕食する。		
特記事項	特になし		

チドリ目シギ科	ハウロクシギ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Numenius madagascariensis</i> (Linnaeus, 1766)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類，IUCN：VU
選定理由	本種が渡来するには広大な干潟が必要であるが、まとまった面積の干潟は全国的に少なく、本種が定期的に飛来する干潟は重要である。特に曾根干潟では、春秋ともに 50 羽以上の群れが確認されることもあり、飛来地として重要である。	
危機要因	海岸開発	
生息状況	旅鳥として春と秋に渡来する。生息地は数カ所に限られる。	
分布情報	北九州市曾根干潟，福津市津屋崎干潟，福岡市和白干潟・多々良川河口・瑞梅寺川河口，糸島市泉川河口，柳川市筑後川河口・矢部川河口では定期的に飛来する。	
種の概要	長大な嘴を持つ大型のシギ類で全長 61.5cm。シベリア南東部で繁殖し，オーストラリアで越冬する。日本では旅鳥として春・秋に渡来する。広大な干潟に生息し，カニ類を好んで捕食する。	
特記事項	特になし	

チドリ目ツバメチドリ科	ツバメチドリ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Glareola maldivarum</i> Forster, 1795		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類，IUCN：LC
選定理由	県内では 1974 年から 1975 年にかけて，有明海，大和干拓や三池干拓で確認され，大牟田市の埋立地では繁殖も確認された。最近では 1995 年から 2004 年までの 10 年間，筑後川中流域の中州で繁殖が継続確認されたが，2005 年からは渡来はするものの定着しなくなっている。原因として，ここ数年梅雨時の大雨でも中州が冠水することが少なくなり，草木類が流されることなく成長し，大きくなり過ぎたことによると考えられている。	
危機要因	産地局限，遷移進行，植生変化	
生息状況	夏鳥として渡来する。繁殖地は数カ所に限られており，繁殖数も少なく安定していない。減少傾向にある。	
分布情報	久留米市田主丸町・筑後川中流域，福岡市・和白，今津湾，北九州市・響灘，曾根干潟など。	
種の概要	全長 26.5cm。東アジアの温帯地域で繁殖し，東南アジア，オーストラリアで越冬する。日本では関東以南で局地的に繁殖する。その他の地域では旅鳥として通過するが，稀。農耕地や河川敷などの乾いた地面のある環境で見られる。埋立地や河川の中州で地面に浅い窪みを作って産卵する。飛びながら飛翔する昆虫を捕食する。	
特記事項	以前のような砂礫地環境を取り戻すためには草木類を少なくして，砂礫地を広く確保する対策が必要である。	

チドリ目カモメ科	スグロカモメ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Larus saundersi</i> (Swinhoe, 1871)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類，IUCN：VU
選定理由	繁殖地の中国沿岸部では急速な開発が進行し，本種の自然の繁殖環境は急速に消滅しつつある。しかし，一部の干拓地で高密度での繁殖がされていて，個体数の減少は今のところ見られていない。繁殖地では一極集中化が進んでおり，繁殖地が何らかの理由で繁殖できない状況になれば，個体数が減少に転じる可能性があることから，絶滅の危険性が将来的に考えられる。曾根干潟は国内有数の越冬地であり，重要性は高い。	
危機要因	海岸開発(繁殖地)，産地局限	
生息状況	冬鳥として渡来。越冬地は数カ所に限られる。2000 年代前半まで増加していたが，現在は安定している。	
分布情報	定期的に越冬するのは北九州市曾根干潟(300～350 羽)，福岡市瑞梅寺川河口(20～30 羽)，筑後川・矢部川河口域(20～30 羽)。苅田町，福岡市東区，糸島市などでも少数越冬するが，飛来状況は変動が多い。	
種の概要	小型のカモメ類で全長 33cm。中国東北部，韓国で繁殖し，韓国南部，日本，中国南部で越冬する。1980 年代の生息数は 2,000 羽程度であったが，2010 年現在の生息数は 8,000 羽以上と増加している。日本では西日本の干潟に冬鳥として渡来する。干潟でカニ，ゴカイ，貝類などを捕食する。	
特記事項	特になし	



チドリ目カモメ科		コアジサシ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Sterna albifrons</i> Pallas, 1764		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類，IUCN：LC	
選定理由	夏鳥として渡来し，河川敷や海浜の砂地，埋立地等で集団繁殖する。繁殖場所の減少によるものと思われるが飛来数が減少した。また，飛来はしたものの営巣に入ることなく繁殖期中途中でいなくなる例が近年増えている。営巣環境に変化は見られないことから，餌となる魚類の出現状況に影響を受けている可能性がある。また，カラスのコロニー襲撃や4WD車等の砂浜への乗り入れによる営巣放棄も深刻な問題である。		
危機要因	海岸開発，河川開発，土地造成，遷移進行，捕食者侵入(カラス)		
生息状況	夏鳥として渡来するが安定的な繁殖地はなく，繁殖状況は年変動が大きい。繁殖地，飛来数とも減少している。		
分布情報	北九州市響灘埋立地，苅田町新北九州空港，福岡市博多湾東部，筑後川中流(朝倉市)，大牟田市三池島		
種の概要	全長 27cm の小型のアジサシ類。全世界の温帯から熱帯にかけて分布し，北半球の温帯で繁殖するものは，南半球で越冬する。日本では夏鳥として全国に渡来し，内湾，河川，湖沼などで見られる。河原，海岸，造成地などにコロニーを作って繁殖する。1 巣卵数は 2～4 個。ダイビングして魚類を捕食する。		
特記事項	種の保存法；国際希少野生動物種		

ハト目ハト科		カラスバト	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Columba janthina</i> Temminck, 1830		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：準絶滅危惧，IUCN：NT	
選定理由	島嶼性のハトで，生息地は限定されており個体数は多くない。個体数の把握はされていないが，1970 年代と比較すると，減少しているように感じられる。		
危機要因	産地局限，森林伐採		
生息状況	留鳥として分布する。生息は局地的で，生息密度は生息地により異なる。		
分布情報	玄界灘の島嶼のうち，白島，藍島，馬島，沖ノ島，大島，地島，玄界島，姫島で見られる。白島，沖ノ島，大島では生息密度が高い。小呂島，相島は渡りの際に見られるが，繁殖していないと思われる。稀に本土域で観察されることもある。		
種の概要	全長 40cm の大型のハト類。日本および中国山東省，韓国南岸に分布する。日本では本州中部以南の島嶼に生息する。照葉樹林に留鳥として生息するが，島によっては季節による移動を行う。樹上や樹洞で営巣するが，ヘビの生息しない島では地上で営巣することもある。1 巣卵数は 1 個。樹上や地上で照葉樹の実や芽を食べる。		
特記事項	困天；カラスバト		

フクロウ目フクロウ科		コミスク	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Asio flammeus</i> (Pontoppidan, 1763)		2001：－，環境省：－，IUCN：LC	
選定理由	冬鳥として飛来し，遠賀川河川敷，彦山川河川敷，北九州市曾根新田等福岡市瑞梅寺川河口の周辺後背地葦原や農耕地で生活するが近年の河川敷の葦原や湿地が減少し，飛来地の限定や飛来数が減少した。今後も葦原の復元は見られないことから，更に減少すると思われる。写真撮影を目的とした野鳥観察者の接近も影響を与えている可能性がある。		
危機要因	河川開発，草地開発，その他(農地開発・観察圧)		
生息状況	冬鳥として渡来するが局地的で，個体数も少ない。		
分布情報	彦山川河川敷，遠賀川河川敷，北九州市曾根新田，福岡市今津，柳川市有明海沿岸埋立地。現在は毎年安定して越冬する場所はない。		
種の概要	全長 37～39cm。北半球の中緯度地域以北で繁殖し，冬は南下する。日本では冬鳥として全国に渡来し，農耕地，河川敷，草原，埋立地などで見られる。夜行性だが，昼間も活動するため，他のフクロウ類よりも目に付きやすい。日中は飛翔しながら，夜間は杭や木にとまってネズミ類を捕食する。草地を畴とする。		
特記事項	特になし		

## フクロウ目フクロウ科

## アオバスク

## 絶滅危惧Ⅱ類

*Ninox scutulata* (Raffles, 1822)

2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：－，IUCN：LC

選定理由	県内では社寺林や低山地に夏鳥として渡来する。以前は住宅地や低山で普通に見られていたが、近年営巣に必要な大木の減少等により減少した。また、現在定期的に渡来し繁殖するのは神社等に限られてきた。また、餌となる昆虫類が減少していることによる影響も考えられる。
危機要因	森林伐採(大径木の減少)、その他(餌となる昆虫類の減少)
生息状況	夏鳥として県内各地に広く渡来するが、各地で減少しており、特に都市部での減少が著しい。
分布情報	県内全域で繁殖記録がある。
種の概要	全長 29cm のフクロウ類。東アジアから東南アジアに分布し、東アジアで繁殖するものは、冬東南アジアへ渡る。日本では夏鳥として全国に渡来し、平地から山地の大木のある神社や公園で繁殖する。巣は樹洞を利用するほか、巣箱に入ることもある。夜行性で昆虫類を捕食する。
特記事項	特になし

## ブッポウソウ目カワセミ科

## アカショウビン

## 絶滅危惧Ⅱ類

*Halcyon coromanda* (Latham, 1790)

2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：－，IUCN：LC

選定理由	県内の限られた地域に点在するように生息している。生息地である上流部の環境変化により、営巣環境が悪化していると考えられる。カエル、トカゲ、昆虫などを餌とするため、環境が悪化してこれらの餌動物が減ると生息が危ぶまれる。
危機要因	森林伐採、ダム建設、道路工事、その他(営巣地への人の接近)
生息状況	夏鳥として渡来する。分布は局地的で個体数は少ない。生息数に大きな増減はないように思われる。
分布情報	英彦山地(添田町・みやこ町)、脊振山地(福岡市)、古処山地(朝倉市)、八木山川上流(宮若市・飯塚市)、耳納山地(うきは市)、釈迦岳山地(八女市)。
種の概要	全身赤褐色のカワセミ類で全長 27cm。東南アジアおよび東アジアに分布する。日本では夏鳥として全国に飛来する。山地の溪流沿いの森林に生息する。巣は樹洞を利用するほか、朽木や土壁に穴を掘ることや、人家を利用することもある。1 巣卵数 5～6 個。魚類、サワガニ、カエル、昆虫類などを捕食する。
特記事項	特になし

## キツキ目キツキ科

## オオアカゲラ

## 絶滅危惧Ⅱ類

*Dendrocopos leucotos* (Bechstein, 1803)

2001：－，環境省：－，IUCN：LC

選定理由	県内非常に局限。もともと個体数が多くないため情報が少なかったが、2000 年以降の県内の情報を収集した結果、観察された地域が添田町英彦山周辺に限られており、他に繁殖している場所が発見されていない。生息地の隔離分断化、生息数の減少により、個体群の脆弱化が懸念される。
危機要因	森林伐採、自然災害、産地局限
生息状況	留鳥として分布するが、生息地は非常に局限される。もともと個体数が少ない。
分布情報	英彦山地の北岳登山道周辺、深倉峽(添田町)で繁殖。北九州市皿倉山で 2000 年以降の確認がある。脊振山地、若杉山でも記録があるが、2000 年以降の確実な記録はない。
種の概要	全長 28cm。ユーラシア大陸の中緯度地帯に分布する。日本では奄美大島以北に留鳥として分布する。山地の自然度の高い森林に生息し、立ち枯れの木に巣穴をあけ営巣する。1 巣卵数は 3～5 個。枯木で昆虫の幼虫やアリを捕食する。
特記事項	県内の山地は十分な調査が行われておらず、生息状況は不明な点が多い。

スズメ目ウグイス科		センダイムシクイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Phylloscopus coronatus</i> (Temminck & Schlegel, 1847)		2001：－，環境省：－，IUCN：LC	
選定理由	2000年以降の観察記録を収集した結果、県内の生息域が局限であることがわかった。繁殖している個体数は少なく、繁殖地の環境保全が不可欠である。県内では夏鳥として主に山地に飛来し、山地で繁殖する。添田町大南林道では、4月下旬から7月にかけて毎年同じ場所に飛来し、さえずりが聞かれる。北九州市小倉北区でも巣や巣立ち雛が確認されている。		
危機要因	森林伐採、道路工事		
生息状況	夏鳥として渡来するが、生息地は局地的で、生息数も少ない。渡り時期には多数観察される。		
分布情報	添田町英彦山、北九州市足立山・皿倉山、福岡市脊振山地、三郡山地、古処山地、みやま市清水山で繁殖期の記録がある。渡り際には県内各地で普通に観察される。		
種の概要	全長 12.5cm。ロシア東南部、中国東北部、朝鮮半島、日本で繁殖し、東南アジア、インドで越冬する。日本では九州以北に夏鳥として渡来し、山地の広葉樹林で繁殖する。林内の斜面の崖地に巣を作る。1巣卵数は4～6個。樹上で昆虫類を捕食する。		
特記事項	特になし		

スズメ目カササギヒタキ科		サンコウチョウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Terpsiphone atrocaudata</i> (Eyton, 1839)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：－，IUCN：NT	
選定理由	夏鳥として低山の森に飛来する。局地的で個体数も少ない。近年は繁殖場所が限定してきた傾向にある。山深い森林よりも杉林等どちらかといえば低山に繁殖することから森林環境の悪化により繁殖場所が減少し個体数も減少すると思われる。また、写真撮影を目的とした野鳥観察者の接近による影響も各地で問題となっている。		
危機要因	森林伐採、その他(観察圧)		
生息状況	夏鳥として渡来する。県内各地に分布するが、局地的で個体数も少ない。		
分布情報	北九州市皿倉山・畑貯水池・朽網、みやこ町、直方市福智山、宗像市、福岡市油山、久留米市耳納山地などで繁殖情報がある。春には渡り途中のものが各地で観察される。		
種の概要	雄は非常に長い尾を持つ。全長雄 45cm、雌 17cm。日本、済州島、台湾、フィリピンで繁殖し、中国南部、東南アジアで越冬する。日本では本州以南に夏鳥として渡来し、平地から低山の沢筋の比較的暗い林に生息する。低木の二又になった枝に巣を作る、1巣卵数は3～5個。林内の空間で飛翔する昆虫をフライングキャッチで捕食する。		
特記事項	特になし		

アビ目アビ科		シロエリオオハム	準絶滅危惧
<i>Gavia pacifica</i> (Lawrence, 1858)		2001：－，環境省：－，IUCN：LC	
選定理由	県内には冬鳥として渡来し、海域で大きな群れが見られる。かつては志賀島から海の中道の外海側で数千羽の大群が観察されたが、近年急激に個体数は減少している。これは、餌となるイカナゴなどの餌となる魚類の減少の影響と考えられている。重油流出も本種の生息に深刻な影響を与える可能性がある。		
分布情報	響灘から玄界灘にかけての海域で多く見られる。河口や港内、ため池などで観察されることもあるが、多くは傷病個体である。その他の地域では稀。		

カイツブリ目カイツブリ科		ガムリカイツブリ	準絶滅危惧
<i>Podiceps cristatus</i> (Linnaeus, 1758)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：－，IUCN：LC	
選定理由	県内には冬鳥として飛来し、海域や河口、大きなため池や1級河川の中流域などで見られる。生息地は海域の埋立などにより悪化しており、越冬個体数は80年代と比較すると著しく減少している。		
分布情報	福岡湾ではかつて1,000羽を超える群れが越冬していたが、近年は100羽を超える群れはほとんど見られない。福岡湾、周防灘沿岸域は比較的個体数が多いほか、響灘沿岸、玄界灘沿岸、洞海湾、船越湾、遠賀川下流域、筑後川・矢部川中流～下流域および有明海でも少数の群れが見られる。		

コウノトリ目サギ科		サンカノゴイ	準絶滅危惧
<i>Botaurus stellaris</i> (Linnaeus, 1758)		2001：準絶滅危惧、環境省：絶滅危惧IB類、IUCN：LC	
選定理由	県内各地のヨシ原に冬鳥として渡来するが少なく、保護色のため発見が困難であり、生息状況は不明な点が多い。本種の生息はほぼヨシ原に限られているが、生息地のヨシ原が開発や改修により減少していることから、個体数は減少していると考えられる。		
分布情報	福岡市海の中道および瑞梅寺川河口、北九州市響灘埋立地では記録が多く、毎年越冬していると考えられる。小竹町南良津、筑紫野市でも記録がある。		
コウノトリ目サギ科		ササゴイ	準絶滅危惧
<i>Butorides striatus</i> (Linnaeus, 1758)		2001：－、環境省：－、IUCN：LC	
選定理由	県内には夏鳥として渡来し、主に河川で見られる。県南部の一部地域ではその数は増えている所があるが、県全域では、その数を減らしている。(営巣する街路樹、社寺林など、餌となる田んぼや河川、ため池の生き物の減少の影響)		
分布情報	筑後市・駅前ケヤキの街路樹(50を越す巣)、久留米市JR駅周辺、福岡市雑餉隈の街路樹、樋井川下流などで繁殖が確認されている。県内各地の河川で見られることから、繁殖場所はもっと多いと思われる。		
コウノトリ目サギ科		アマサギ	準絶滅危惧
<i>Bubulcus ibis</i> (Linnaeus, 1758)		2001：－、環境省：－、IUCN：LC	
選定理由	県内には夏鳥として渡来し、主に農耕地で見られる。サギ類の中では比較的個体数は多かったが、近年著しく減少している。コロニー内での他種との競合関係、農耕地の減少などが原因として考えられる。		
分布情報	県内各地のまとまった面積の水田地帯で見られる。苅田町、行橋市、福岡市東区、西区、小郡市などでコロニーが確認されている。		
コウノトリ目サギ科		チュウサギ	準絶滅危惧
<i>Egretta intermedia</i> (Wagler, 1829)		2001：準絶滅危惧、環境省：準絶滅危惧、IUCN：LC	
選定理由	県内には夏鳥として渡来し、主に農耕地で見られる。他のサギ類とともに集団繁殖地(コロニー)を形成するが、本種の数はもともと少なく、サギのコロニーそのものが近年減少した。これはサギのコロニーが騒音、悪臭のため駆除の対象となることがあるためである。		
分布情報	県内各地のまとまった面積の水田地帯で見られる。苅田町、行橋市、福岡市東区、西区、小郡市などでコロニーが確認されている。		
コウノトリ目サギ科		クロサギ	準絶滅危惧
<i>Egretta sacra</i> (Gmelin, 1789)		2001：－、環境省：－、IUCN：LC	
選定理由	県内には留鳥として生息し、岩礁の海岸で見られる。岩礁の減少や磯釣りによる繁殖場所への人の接近の影響などにより、減少が懸念される。		
分布情報	響灘から玄界灘にかけての沿岸や島嶼の岩礁海岸(福岡市志賀島・能古島・玄界島、北九州市白島、宗像市大島・地島、糸島半島、糸島市姫島)などで見られる。遠賀川河口、北九州市曾根干潟でも確認例がある。		
カモ目カモ科		ツクシガモ	準絶滅危惧
<i>Tadorna tadorna</i> (Linnaeus, 1758)		2001：絶滅危惧II類、環境省：絶滅危惧IB類、IUCN：LC	
選定理由	冬鳥として飛来し、干潟や内湾で生活する。飛来数は年変動が大きい。曾根干潟、和白干潟は本種の国内最大規模の越冬地であるが、いずれも周辺で埋立事業が行われており、生息数の増減はこれらの事業が影響している可能性がある。		
分布情報	北九州市曾根干潟および福岡市和白干潟、博多湾アイランドシティ埋立地、柳川市筑後川河口・矢部川河口に飛来する。		

カモ目カモ科		オシドリ	準絶滅危惧
<i>Aix galericulata</i> (Linnaeus, 1758)		2001：準絶滅危惧，環境省：情報不足，IUCN：LC	
選定理由	県内には冬鳥として渡来するが，少数が繁殖している可能性もある。ダムや樹林に囲まれたため池などで越冬する。異常気象によるダムの水位の極端な低下，釣りを目的とした人の侵入，ダム・河川工事などが危機要因として考えられる。		
分布情報	北九州市，朝倉市，福岡市，飯塚市，直方市，宮若市，筑前町，川崎町，桂川町などで 2000 年以降の確認がある。		

タカ目タカ科		ハチクマ	準絶滅危惧
<i>Pernis apivorus</i> (Linnaeus, 1758)		2001：準絶滅危惧，環境省：準絶滅危惧，IUCN：LC	
選定理由	毎年，秋の渡りに時期に 4,000～5,000 羽程度の個体が，福岡市片江展望台で確認されている。北九州市風師山や皿倉山，宮若市六ヶ岳でも 1,000 羽以上が確認される。脊振山地，福智山地で繁殖期の観察例がある。生態系の頂点に位置する鳥で，繁殖地，中継地などの環境変化に伴って減少する可能性が高い。		
分布情報	福岡県は秋の渡りのメインルートに位置しており，ルート上では多数のハチクマが観察される。秋の渡りルート・時期は把握されているが，春の渡りについては十分解明されていない。		

タカ目タカ科		オオタカ	準絶滅危惧
<i>Accipiter gentilis</i> (Linnaeus, 1758)		2001：準絶滅危惧，環境省：準絶滅危惧，IUCN：LC	
選定理由	福岡県での繁殖数は 100 つがい以下と考えられるが，この 10 年で繁殖数は急増している。生息数は少ないものの，増加傾向が見られるため，準絶滅危惧とした。種の保存法(国内希少野生動物種)。		
分布情報	福岡県では冬鳥とされていたが，2004 年に宗像市で繁殖が確認された。また，県内各地で繁殖期の観察例が増えており，生息数は増加している。		

タカ目タカ科		ノスリ	準絶滅危惧
<i>Buteo buteo</i> (Linnaeus, 1758)		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	県内には冬鳥として渡来し，山間部や丘陵地で見られるが，個体数は多くない。春と秋には渡りの個体も通過する。生息地である里山や農耕地，草地の環境悪化，餌となるネズミ類などの小動物の減少などが懸念される。		
分布情報	県内全域の丘陵地や山地，島嶼で越冬する。北九州市平尾台では比較的個体数が多い。		

タカ目タカ科		サンバ	準絶滅危惧
<i>Butastur indicus</i> (Gmelin, 1788)		2001：準絶滅危惧，環境省：絶滅危惧Ⅱ類，IUCN：LC	
選定理由	県内には夏鳥として飛来し繁殖する。春と秋には渡りの個体も多数通過するものと思われる。生息地である里山の環境悪化，餌となるカエルやヘビが生息する水田の減少などが懸念される。		
分布情報	県内全域の丘陵地や山地で繁殖する。		

タカ目タカ科		ハイロチュウビ	準絶滅危惧
<i>Circus cyaneus</i> (Linnaeus, 1766)		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	冬期，埋立地等の葦原に飛来するが観察例も少なく，個体数も 1～2 羽と少ない。葦原等の湿原が近年減少したことが本種の減少につながったと思われる。		
分布情報	北九州市曾根干潟・響灘埋立地，豊前海岸後背地等に飛来，福岡市瑞梅寺川河口周辺，筑後川流域では時折観察される。		

タカ目ハヤブサ科		コチョウゲンボウ	準絶滅危惧
		<i>Falco columbarius</i> Linnaeus, 1758	2001：－，環境省：－，IUCN：LC
選定理由	冬鳥として飛来し、広い農耕地や、河川敷、原野等で生活する。越冬数は非常に少ない。		
分布情報	北九州市曾根新田、福岡市瑞梅寺川河口周辺では毎年 1～数羽が越冬する。香春町、糸島市泉川河口周辺、筑後平野でも記録がある。		

ツル目クイナ科		クイナ	準絶滅危惧
		<i>Rallus aquaticus</i> Linnaeus, 1758	2001：－，環境省：－，IUCN：LC
選定理由	河川、水路、ため池などのヨシ原に冬鳥として渡来するが、生息数は少ない。ヨシ原内に生息するため観察は困難であり、生息状況の把握は困難であるが、近年出現頻度は減少している。		
分布情報	県内各地のヨシ原に冬鳥として飛来するが、個体数は多くない。		

ツル目クイナ科		ヒクイナ	準絶滅危惧
		<i>Porzana fusca</i> (Linnaeus, 1766)	2001：準絶滅危惧，環境省：絶滅危惧Ⅱ類，IUCN：LC
選定理由	県内には留鳥として生息し、河川、ため池、水田などで繁殖するが、その生息密度はそれほど高くない。水辺の草むら、葦が密生しているところを好む。本種は半夜行性で、警戒心が強く、環境の変化に敏感と思われる。生息環境の悪化(水田やため池の整備による周辺の草むらやアシ原の減少)がヒクイナの生息地域を狭めている。		
分布情報	県内全域の平野部から丘陵地の河川、ため池、水田地帯に生息する。		

チドリ目タマシギ科		タマシギ	準絶滅危惧
		<i>Rostratula benghalensis</i> (Linnaeus, 1758)	2001：準絶滅危惧，環境省：－，IUCN：LC
選定理由	県内には留鳥として生息すると思われるが、冬の生息状況はよくわかっていない。生息地は局地的で多くない。水田、ハス田、湿地などに生息するが、日中はあまり活動しないため生息していても気づかない場合がある。農地や湿地、河原などの環境悪化により生息地が減少している。		
分布情報	県内ほぼ全域の水田、湿地、河原に分布。福岡市今津、朝倉市の水田や河原では比較的よく見られる。		

チドリ目チドリ科		シロチドリ	準絶滅危惧
		<i>Charadrius alexandrinus</i> Linnaeus, 1758	2001：－，環境省：－，IUCN：LC
選定理由	留鳥として県内の沿岸域に生息し、埋立地や河川敷等で繁殖するが、個体数は多くない。現在知られている繁殖地の多くは埋立地であり、安定した繁殖環境ではない。海の中道の砂浜ではカラスによる捕食、筑後川の中州では大雨による流出や 4WD 車侵入による影響など問題が多い。		
分布情報	北九州市響灘埋立地・新北九州空港埋立地、福岡市海の中道・アイランドシティ埋立地、筑後川河川敷等で繁殖記録がある。曾根干潟、和白干潟では渡りや越冬時期に 200 羽以上の群れを見ることがある。		

チドリ目チドリ科		ケリ	準絶滅危惧
		<i>Vanellus cinereus</i> (Blyth, 1842)	2001：準絶滅危惧，環境省：－，IUCN：LC
選定理由	県内各地に留鳥として確認され、休耕地などで繁殖している。古賀市を中心に分布を拡大しており、2000 年より少し前に宮若市で、その後宗像市でも繁殖するようになった。農耕地の減少、野犬の増加などにより、減少する可能性がある。本種の営巣は田植え前の水田で行われることが多いため、本種の保全には農家の協力が必要となる。		
分布情報	宮若市、古賀市、宗像市、久留米市などで繁殖が確認されているほか、糟屋郡でも繁殖の可能性はある。北九州市曾根新田、福岡市瑞梅寺川河口周辺などでも記録がある。		

チドリ目チドリ科		タゲリ	準絶滅危惧
		<i>Vanellus vanellus</i> (Linnaeus, 1758)	2001 : 一, 環境省 : 一, IUCN : LC
選定理由	県内では冬鳥として渡来し、農耕地や河川敷などで数羽～数十羽の群れが広く見られたが、近年は個体数が減少している。		
分布情報	北九州市曾根新田、福岡市瑞梅寺川河口周辺、有明海沿岸の干拓地や筑後川河川敷で見られる。		

チドリ目シギ科		ハマシギ	準絶滅危惧
		<i>Calidris alpina</i> (Linnaeus, 1758)	2001 : 一, 環境省 : 一, IUCN : LC
選定理由	県内には冬鳥として渡来する。本種は最も個体数の多いシギであり、博多湾では 2,000 個体以上が見られることもあったが、近年減少しており 1,000 個体を超える群れはほとんど見られなくなった。減少の要因は埋立等の影響による生息環境の悪化のほか、繁殖環境の変化により、繁殖数が減少しているためともいわれている。		
分布情報	博多湾東部、曾根干潟で 500 羽以上の群れが越冬するほか、県内各地の海岸や干潟で見られる。		

チドリ目シギ科		ミユビシギ	準絶滅危惧
		<i>Crocethia alba</i> (Pallas, 1764)	2001 : 一, 環境省 : 一, IUCN : LC
選定理由	現在福岡県で定期的な飛来が見られるのは博多湾だけであり、ハマシギ同様越冬数は減少傾向が見られる。減少の要因は埋立等の影響による生息環境の悪化(底質の変化など)が考えられる。		
分布情報	博多湾(和白干潟、海の中道、姪浜)で越冬する。		

チドリ目シギ科		オグロシギ	準絶滅危惧
		<i>Limosa limosa</i> (Linnaeus, 1758)	2001 : 一, 環境省 : 一, IUCN : NT
選定理由	県内には旅鳥として渡来するが、少ない。本種は淡水湿地を好むが、福岡県での生息環境は水田、ハス田に依存している。比較的飛来数の多かった福岡市瑞梅寺川河口周辺では、ハス田の減少により他の淡水湿地性のシギ類同様著しく減少している。また、二毛作による稲作時期の遅れにより、春季の渡り時期に水の入っていない田んぼが増加しており、本種の飛来に影響を与えていると考えられる。		
分布情報	春、秋に県内各地の水田や干潟に旅鳥として飛来するが、個体数は多くない。		

チドリ目シギ科		オオソリハシギ	準絶滅危惧
		<i>Limosa lapponica</i> (Linnaeus, 1758)	2001 : 一, 環境省 : 一, IUCN : LC
選定理由	県内には春と秋に旅鳥として干潟に飛来するが局地的。北九州市曾根干潟では国内有数の中継地となっており、春季には 400 羽を超える群れが見られることもある。しかし、渡来数は近年減少傾向にある。		
分布情報	北九州市曾根干潟、福岡市和白干潟・瑞梅寺川河口、柳川市筑後川河口・矢部川河口などで定期的な飛来が見られるほか、宗像市釣川河口、福津市津屋崎入り江、糸島市泉川河口でも記録がある。		

チドリ目ウミスズメ科		ウミスズメ	準絶滅危惧
		<i>Synthliboramphus antiquus</i> (Gmelin, 1789)	2001 : 一, 環境省 : 絶滅危惧 IA 類, IUCN : LC
選定理由	県内には冬鳥として渡来するが、越冬数は年変動が大きい。定期的な越冬地としては国内の南限となっている。環境変化に伴う餌の増減などにより、生息が不安定化する可能性が高い。また、重油流出事故が発生すれば、壊滅的な影響を受けると考えられる。		
分布情報	玄界灘に飛来し、志賀島から新宮町にかけての海域に多い。福津市(旧福岡市)沖、宗像市沖、糸島市沖でも記録がある。		

カッコウ目カッコウ科		ジュウイチ	準絶滅危惧
<i>Cuculus fugax</i> Horsfield, 1821		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	県内の主に標高 500m 以上の山地に夏鳥として渡来するが，個体数は多くない。顕著な減少傾向は認められないが，生息数は多くないことから準絶滅危惧とした。		
分布情報	福地山地，英彦山地，古処山地，三郡山地，脊振山地，耳納山地，釈迦岳山地などに夏鳥として渡来する。		

カッコウ目カッコウ科		ツツドリ	準絶滅危惧
<i>Cuculus saturatus</i> Blyth, 1843		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	県内の主に標高 500m 以上の山地に夏鳥として渡来するが，個体数は多くない。現在のところ顕著な減少傾向は認められないが，託卵相手のセンダイムシクイが減少しているため，本種も減少すると考えられる。		
分布情報	福地山地，英彦山地，古処山地，三郡山地，脊振山地，耳納山地，釈迦岳山地などに夏鳥として渡来する。		

ブッポウソウ目カワセミ科		ヤマセミ	準絶滅危惧
<i>Ceryle lugubris</i> (Temminck, 1834)		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	県内には留鳥として生息する。北九州地区，福岡地区では極めて個体数が少なくなっているほか，筑豊地区，筑後地区でも減少している。宮若市力丸ダムでは放置された釣糸に絡まって溺死した例が報告されており，釣客のマナーの悪さが生息に悪影響を与えている。また，撮影のための繁殖地への接近も問題となっている。		
分布情報	祓川上流，遠賀川水系の上流域，室見川上流，那珂川上流，筑後川・矢部川水系の上流域		

スズメ目ツバメ科		コシアカツバメ	準絶滅危惧
<i>Hirundo daurica</i> Linnaeus, 1771		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	夏鳥として飛来し，主に団地，学校，病院等の比較的大型の建物や橋梁において繁殖していたが，近年繁殖場所が減少し，個体数も減少している。鳥インフルエンザ対策のため学校等にかげられた巣が撤去されることが考えられる。また，同所的に営巣するイワツバメとの競合により減少している可能性もある。		
分布情報	県内全域に飛来するが，都市部ではほとんど繁殖は見られず，比較的郊外で繁殖が見られる。また一部は渡りの時期に通過する。		

スズメ目イワヒバリ科		カヤクグリ	準絶滅危惧
<i>Prunella rubida</i> (Temminck & Schlegel, 1848)		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	2000 年ごろまでは冬鳥として添田町英彦山の北岳から中岳にかけての尾根筋に飛来していたが，台風などの災害による自然環境の変化や，ブナ植林再生のためのクマイザサ群落の伐採など生息域の消失が要因となってか近年飛来の確認ができていない。		
分布情報	2000 年以降の確実な記録はない。		

スズメ目ツグミ科		クロツグミ	準絶滅危惧
<i>Turdus cardis</i> Temminck, 1831		2001：一，環境省：一，IUCN：LC	
選定理由	県内各地の標高 600m 以上の山地の広葉樹林に夏鳥として渡来するが，生息密度は高くない。顕著な減少傾向は認められないが，生息数は多くないことから準絶滅危惧とした。		
分布情報	英彦山地，福知山地，古処山地，三郡山地，脊振山地，耳納山地に夏鳥として渡来するほか，県内各地で春秋に渡り途中のものが見られる。冬季の観察例もある。		



スズメ目ウグイス科		オオヨシキリ	準絶滅危惧
<i>Acrocephalus arundinaceus</i> (Linnaeus, 1758)		2001：準絶滅危惧，環境省：－，IUCN：LC	
選定理由	県内には夏鳥として渡来し、繁殖する。河川、ため池、埋立地などのヨシ原に生息する。繁殖には、ある程度の広さのヨシ原が必要であるが、湖沼・河川・海岸・湿地の改修、埋立などで繁殖地となるヨシ原が減少している。特に北九州地区、福岡地区では繁殖場所は少なく、生息数は減少している。		
分布情報	北九州市響灘埋立地・曾根新田・平尾台、宗像市曲、福岡市博多湾埋立地・福岡空港北側遊水池・室見川中流・瑞梅寺川河口、遠賀川中流域・彦山河流域、小竹町ため池、筑後川流域、有明海沿岸部などで繁殖している。		

スズメ目ヒタキ科		オオルリ	準絶滅危惧
<i>Cyanoptila cyanomelana</i> (Temminck, 1829)		2001：準絶滅危惧，環境省：－，IUCN：LC	
選定理由	県内には夏鳥として渡来し、繁殖する。山地の溪流沿いの樹林に生息する。林道整備事業などによる工事や開発、温暖化による環境変化など生息域の減少が懸念される。また、密猟による補獲もあるものと思われる。		
分布情報	県内各地の標高 400m 以上の山地にはほぼ生息している。		

スズメ目ツリスガラ科		ツリスガラ	準絶滅危惧
<i>Remiz pendulinus</i> (Linnaeus, 1758)		2001：－，環境省：－，IUCN：LC	
選定理由	生息地であるヨシ原は河川・ため池の改修などにより減少している。越冬個体、渡りで通過する個体とも近年減少している。		
分布情報	県内各地のため池や河川のヨシ原で見られる。		

スズメ目ゴジュウカラ科		ゴジュウカラ	準絶滅危惧
<i>Sitta europaea</i> Linnaeus, 1758		2001：－，環境省：－，IUCN：LC	
選定理由	現在確実な生息地は英彦山地だけであり、生息数も少ない。生息地の隔離分断化、生息数の減少により、個体群の脆弱化が懸念される。		
分布情報	添田町英彦山の 800m 以上の林内で 1 年中観察され、繁殖期にはさえずりも聞かれるため繁殖していると思われる。三郡山地でも観察記録がある。釈迦岳山地にも生息の可能性があるが、調査されていない。		

スズメ目アトリ科		ハギマンコ	準絶滅危惧
<i>Leucosticte arctoa</i> (Pallas, 1811)		2001：－，環境省：－，IUCN：LC	
選定理由	県内には冬鳥として飛来する。2000 年以前は英彦山中岳から北岳にいたる尾根筋で数羽を確認できていたが、2000 年以降確認例が減っている。越冬地の大きな環境変化が減少・消失要因と考えられる。		
分布情報	宮若市、添田町、福岡市今津で 2000 年より前に毎年観察されていたが、添田町、福岡市今津では近年確認がなく、宮若市ではその後の状況が不明。脊振山、小呂島でも記録がある。		

スズメ目ハタオリドリ科		ニューナイスズメ	準絶滅危惧
<i>Passer rutilans</i> (Temminck, 1835)		2001：－，環境省：－，IUCN：LC	
選定理由	本種は冬鳥で、筑後平野に比較的多くの個体が越冬している。それでも、決まった越冬地域はなく、毎年、点在した異なる農耕地に小さな群れが生息している状況である。県内の他地域ではほとんど見られない。越冬する地域の環境変化次第では、生息数が減少する可能性がある。		
分布情報	筑後地区では比較的好く見られるが、北九州地区、筑豊地区、福岡地区ではほとんど見られない。		

キン目キン科	ウスラ	情報不足
--------	-----	------

*Coturnix japonica* Temminck & Schlegel, 1849

2001：情報不足，環境省：準絶滅危惧，IUCN：NT

選定理由	本種は草地の中に潜んで生息しているため、生息状況はほとんどわかっていない。観察例は少なくなっていることから、飛来数は減少していると考えられる。
分布情報	県内各地の農耕地や河川敷で記録されている。

フクロウ目フクロウ科	オオコノハズク	情報不足
------------	---------	------

*Otus lempiji* (Horsfield, 1821)

2001：－，環境省：－，IUCN：LC

選定理由	県内での生息状況はほとんど把握されておらず、繁殖の確認例もない。断片的な観察記録や国内の分布状況から繁殖している可能性は高いが、生息数は非常に少ないと考えられる。
分布情報	観察記録は極めて少ないが、傷病鳥として保護される事例は比較的多い。小呂島、相島などの島嶼では晩秋に比較的確認例が多く、越冬している可能性もある。

スズメ目ヒタキ科	コサメヒタキ	情報不足
----------	--------	------

*Muscicapa dauurica* Pallas, 1811

2001：－，環境省：－，IUCN：LC

選定理由	県内では秋の渡りの時期には市街地の公園や山地の比較的開けた山道などの人目につきやすい場所で観察される。しかし、繁殖期の生息情報が少なく、県内にどの程度繁殖個体が生息しているのか、はっきりとしない。明るい落葉広葉樹林や針広混交林に生息するが、その数は少ないと思われる。
分布情報	九州でも繁殖するが、県内での繁殖期の観察記録はほとんどない。囀りが複雑だが他の夏鳥に比べて声量が小さく、渡来後つがいになると鳴かなくなるので、その存在を確認し難いのか、情報が極めて少ない。

スズメ目シジュウカラ科	コガラ	情報不足
-------------	-----	------

*Parus montanus* Conrad von Baldenstein, 1827

2001：－，環境省：－，IUCN：LC

選定理由	2000年以降添田町英彦山周辺で確認され、撮影もされている。繁殖しているかどうかは不明。
分布情報	添田町で2000年以降の確認がある。

